

責任者：清水 敏宏

P1

◎ 会報の発刊を祝して 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 加藤正澄

- ・ 昭和55年度から新学習指導要領が完全実施。創意ある「ゆとりと充実」の教育をめざして取り組んでいる。
- ・ 「啐啄同時」を例とし、児童・生徒が求めるものが教師と一致するところに教育の効果が期待できる。
- ・ この市特活だよりが、現場教育の有効な指導の資料として生かされることを期待する。

◎ 会報発刊に寄せて 名古屋市特別活動研究部委員長 清水敏宏

- ・ 「豊かな人間性を育てる特別活動」のテーマで実践研究を進めている。
- ・ 現場調査を行うと、「話し合い活動」が楽しいと答える児童・生徒は20%、逆に「集会活動が楽しい」と答える児童生徒が70%程度である。
- ・ この結果は、「話し合いは面倒でいやだが集会活動は楽しい」という児童生徒の声であり、教師側も安易に「集会活動をやっていけばよい」という傾向を示していないか。
- ・ この原因は、教師が話し合いの細かいところまで決めてしまったり、指導し過ぎていることに起因しているのではないか。
- ・ 児童・生徒に考えさせる場面や人の意見の良否を判断させる時間が必要ではないか。

P2

今年度の取り組み

小学校	部会	中学校
児童が喜んで参加し、助け合い、励まし合って、創造的な活動を展開するようにしたい。	学級会	自主性を高める学級会活動
自主性を伸ばす児童会活動の指導助言	児童・生徒会	毎日の生活上の問題点に注目させ、活動の成果を日常生活に生かす。
所属クラブでの無気力な活動を問題視する。クラブ活動の意義、ねらいについて共通理解し、活動意欲を高める。	クラブ活動	自主性を伸ばすクラブ活動
学級活動における効果的な資料の	学級指	望ましい学級集団への適応を図る指導

あり方	導	
ひとつの行事を、準備・当日・事後の一連の指導の流れととらえ、児童活動と学級指導との有機的な関連を図る。	学校行事	ひとつの行事を、準備・当日・事後の一連の指導の流れととらえ、児童活動と学級指導との有機的な関連を図る。

P3

研究実践紹介

創意活動「丘の時間」の実践から
人間性豊かな児童の育成をめざす創意活動

P4

個人研究紹介

仲間を育てる集会活動の指導

生徒による日常化をめざす班日誌活動 ー主体的・自律的な生徒の育成のためにー

P5

会員紹介

P6

研究大会の報告

「全小行研東京大会」に参加して

「全特活熊本大会」参加して

P1

◎ 教師が変わらなければ子どもは変わらない

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 若山 旭

- ・ ゆとりある創意を生かした新教育課程が実現できるかは、個々の教師の創意ある指導力と、学校全体の創意ある自発的な取り組み体制の如何に待つところが大きい。
- ・ 人間性豊かな児童・生徒を育成する教育革新の実現への方途は、教師の革新への意欲と熱意にかかっている。教師が変わらなければ子どもは変わらない！
- ・ 3学期に学校の全教育課程の再検討をし、改訂の趣旨をふまえて、ゆとりある充実した教育課程の編成をしていきたい。

◎ 教育研究論文から拾う問題点

名古屋市教育センター 指導主事 石黒 弘明

- ・ 読者を分からせ、納得させうる論文か！？
平易な言葉で具体的な展開が必須である。「もってまわった言い方」を止めたい。
- ・ 主題を適正規模に具象化している論文か！？
主題は、教育の抽象的願望である。この願望を徹底的に具象化したい。
- ・ 資料の処理に無理のない論文か！？
研究の場に真に存在するのは、「事実」である。事実の解釈を誤ると「物語」になる。
- ・ 多彩な表現法で引き締めている論文か！？
「簡潔」は美德であり、「冗長」は罪悪である。事大の前語・未練がましい物語に陥ることも避けたい。
- ・ キラッと光るものが一つある論文か！？
どこか一か所でよいから、「キラッと光るものが一つ」ほしい。後日、読者は必ず、「キラッと光るもの」を引用・活用する。論文の評価は他人の引用・活用で決まる。

P2

名古屋市教育会後援 研究協議会の報告

小 学 校 部 会

<実践発表>

- ・ 「問題解決への意欲を高める話し合い活動の指導」
企画児童へのきめ細かな事前指導取り入れることが、児童の発言をアイデア豊かなものにし、児童一人一人を大切にすることにつながる。

- ・ 「健全で思いやりのある実践的な態度を育てる学級指導」
小集団で力を合わせ、問題を起こさないような取り組みをさせた。健全で思いやりある実践が学級内に多く見られるようになった。

<指導・助言>

「かくされたカリキュラム」が特別活動の中で重要視される。

中 学 校 部 会

<実践発表>

- ・ 「やる気を育てる係活動の指導」
係活動の実施計画書を書き、活動に向けて認識を高めた。また、係ノートで活動の記録と反省をしていった。これらにより、係活動が活発化した。
- ・ 「学校生活を改善していく力を育てる生徒会活動の指導」
文化祭の活動を通して、行事の企画・運営ができるようにした。その結果、生徒一人一人に生徒会の一員であるという自覚が高まってきた。

<指導・助言>

- ・ 係活動では、学級の目標との関連を図りたい。生徒会活動では、年間計画を立案し、教師集団に見通しと共通理解を進めたい。

P3

各区の研究の取り組み

P4

個人研究の紹介

実践意欲を高める係活動の指導

誕生会をとおしての仲間づくり

P5

会員紹介

P6

オランダの教育事情

内地留学での体験

P 1

◎ 全体計画の必要性と目標の明確化

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 中川 篤

- ・ 卒業式の答辞に述べられている「感動した出来事」は、ほとんど特活領域に属するものである。特活領域が、児童生徒の人間形成に大きくかかわっていることを如実に示している。
- ・ 学校教育目標と特活目標を関連づけることが必要である。
- ・ 特活各領域全体を見通した全体計画・目標を明らかにしていく必要がある。
- ・ 特活領域の相互の関連を図る指導計画と指導方法を、発展的に追求する必要がある。

◎ 指導の悩みにこたえる研究集録

名古屋市特別活動研究会 副委員長 早川 宜男

- ・ **悩み1**：深まりのある研究も大切だが、即、日常の実践に役立つ指導法の紹介も必要ではないのか！？
回答1：「How To」の形でも発信していきたい。
例 「司会者には、どのような指導をすればいいのか」「第1回目のクラブ活動の時間には、どうすればよいか」といった悩み（質問）に、「こうすればよい」と方策を示していく。
- ・ **悩み2**：研究会として統一した考え方をはっきりと示すことができないのか！？
回答2：「代表委員会の活動は、全員参加ではないので、7時間目（放課後）に位置づける」は、これまでも発信してきている。
しかし、「児童会役員選挙は、直接選挙か間接選挙か、あるいは、役員選挙が不必要であるか」等については、結論が出ていないので議論を重ねていきたい。

P 2

名古屋市教育会後援 特別活動研究協議会の報告

<実践発表>

- ・ 「実践意欲を高める係活動の指導」
一人一人が自己評価できるカルテの活用を通して、目標達成の成就感を味わわせるようにする。目標の観点を明確にした5段階評価は、児童の意欲を高める上で有効である。

・ 「所属意識を育てる学級指導」
指導過程に相互評価を取り入れ、人間関係のつまずきを解決している。ペア同士の評価メモの活用は、互いの気持ちを考えさせる上で有効である。

・ 「意欲を引き出す学級指導」
ペアからグループ、グループから学級全体へと広げ、学習や進路について話し合わせている。目立たない生徒の意見が反映されやすい実践である。

<指導・助言>

・ 学級担任の課題

学級集団内に好ましい人間関係をつくっていくことは学級担任の大きな課題である。学級指導の目標は、生きた子どもたちが相手であるので、融通性・弾力性がなければならぬ。

・ 「ひとり歩きの係活動」を

係活動中の子どもは、次の4つのタイプに分けられる

① 意欲はあるが、実行がともなっていない

② 実行はするが、意欲的ではない

③ 意欲もなく、活動もしない

④ 意欲的で、実行もともなっている

④のタイプ、つまり「ひとり歩きの係活動」の育成を指導の目標にしたい。

P 3

各区の研究の取り組み

P 4

個人研究の紹介

実践意欲を育てる学級指導

役割意識を高める集会活動

P 5

会員紹介

P 6

教育研究員・内地留学体験記

“人間尊重の教育を”

派遣員・学校訪問記

“うるおい”のある学校環境づくり

P 1

◎ 教師は指導力を

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 鉄元 功

- ・ 各家庭では、電気掃除機が使われている。しかし、学校では、ほうきやぞうきんを使って掃除をしている。ほうきの持ち方・使い方やぞうきんのかけ方・濯ぎ方を知らない教師がいたら適切な指導ができるのか。
- ・ 特別活動は、教科のように指導内容がはっきりしていない。それだけに、的確な判断力を持ち、適切な指導・助言のできる教師の指導力が要望される。

◎ 「成長を暖かく見守る」という心構えで

名古屋市特別活動研究会 委員長 早川 宜男

- ・ 「がんばってやり通した」「うまくできた」「やってよかった」という、成就感・成功感・満足感を特別活動では重視したい。
- ・ 「育つのをじっと待つ」を大切にしていきたい。
- ・ 児童生徒の興味・関心を重んじ、少々の失敗があっても、直ちに干渉したり、援助したりすることは控え、成長を信じて暖かく見守りたい。

P 2

今年度の取り組み

小 学 校	部会	中 学 校
一人一人が自分の問題としてとらえ、深まりのある話し合い活動とするための効果的な指導のあり方を追求する。	学級会	議題の選定・リーダーの育成・企画委員会の指導・係活動の活発化・朝の会と帰りの会の指導を研究する。
企画児童と参加児童の希望・願いをかなえる活動を研究する。	児童会・生徒会	生徒会指導上の問題点を出し合い、具体的な解決策を研究する。
クラブ活動指導上の問題点を出し、最善の解決策を研究する。	クラブ活動	クラブ活動指導上の問題点を調査し、結果を分析して、解決策を探る。

具体的な事例をもとに、効果的な指導と留意すべき点を研究する。	学級指導	快適な学校生活を送らせるための具体的な実践を研究する。
学校行事	学校行事の成功を左右する、各学級の事前・事後指導のあり方を研究する。	

P 3

研究実践校紹介

自らの力で問題を解決する子どもの育成

生徒との接点を求める「瞑想の時間」の実践

P 4

個人研究の紹介

生徒集会を通して連帯感を育てる指導 ー球技大会にふれあいの場を求めてー

所属意識を強める適応指導 ー相手の立場を理解させる指導を通してー

P 5

会員紹介

P 6

全小行研・大阪大会に参加して

集団の中で個が躍動し、豊かな人間性を求めていく学校行事

男
P1

◎ 名古屋市教育界後援・特別活動研究協議会の報告

名古屋市特別活動研究会委員長 早川

宜男

名古屋市教育委員会後援・特別活動研究協議会 豊かな人間性を育てる特別活動

・ 昭和58年11月2日、特別活動研究協議会が名古屋市教育センターで行われた。

- ・ 提案のテーマ
 - 活動意欲を高める係活動の指導 (小学校)
 - 実践意欲を高める委員会活動の指導 (小学校)
 - やる気を育てる学級指導 (中学校)

・ 助言者より

○ 特別活動は、筋のないドラマ。教師の適切な指導・助言が必要である。

○ 係活動は「する係活動から、つくる係活動」へと歩んでいく姿が理想である。また、教師の期待と子どもの実態とのずれを少なくすることも大切である。

○ 正しい勤労感とは、①働くことに喜びを感じる体験 ②協力して実践することが 大切であると分かる体験 ③自主的に計画し、実践して自信が高まる体験の積み重ねにより育つ。

P2

◎ 「ある母親の手記から」

名古屋市立春岡小学校長 安藤 孝允

県教振の「わが家のしつけシリーズ」第1集に、「自主性としつけ」と題した作文があり、「日本の教育は家庭でも集団の場（幼稚園）でも自主性が育ちにくい状況にある」とある。フランスの幼稚園では、「クリスマス会」を行う場合、当日までは保護者には何の連絡も無い。当日は、その内容は上手とは言えないが、子供が精いっぱいがんばる姿がある。日本の幼稚園では「クリスマス会」に向けて、一ヶ月も前から母の会が招集され、衣装を作ったり、舞台装置を作ったり、子どもに台詞を覚えさせたりして、当日は素晴らしいできばえとなる。

日本の教育は、結果を重視するあまり、過程で親や教師が手を出す。子どもは言われるがまま行動するだけで、この機会に育つべき自主性が摘み取られている。

これは、小学校にも当てはまる。学校行事が、量だけでなく、質の向上も問題にされるが、具体的にはこのような面からの見直しも必要である。

教育改革の大きな波は、学校の実態や社会の変容についていけるような教育を、個人差に応じて行うという方向をもって具体化されようとしている。まさに、特別活動の目標と同じであることに気付く。

各学校の実態を見極め、個性に合わせて指導を進めることは、特別活動の最も基本的な指導の方法といえる。

これまでの研究で培われた、たしかな指導の原理に基づき、それを応用した個性的な指導を今後ますます充実・発展させていきたいものだと思う。

P3

海外研修報告

「イタリアの教育視察を終えて」

P4

研究実践紹介

理想の道は遠くとも、明日に向かって元気よく

生活に根ざした体力づくり

P5

会員紹介

P6

教育研究員・教育研究派遣員報告

教育研究員・内地留学記 「心を育てる教育を」

教育研究派遣員・学校訪問記 「梅檀は双葉より芳し」

P1

◎ 人間を知り、子供を知る

名古屋市学校教育研究会 特別活動研究部会長 安藤 孝允

- ・ 教育が人間を育てる営みであれば、対象となる子どもを理解するところから出発することが大切である。
- ・ 子どもを理解するために心理学的手法をよく行うが、片寄ってはいけない。一人一人の子どもの現実を把握し、指導にあたって最も効果的な方法・手段をさぐるために子どもを理解しようと努力することが大切である。
- ・ 子どもは、育てがいのある存在であると同時に、育てにくい存在であると認識し、もたつき・失敗に恐れ、過干渉、過保護になってはいけない。特別活動の指導もこうした認識に基づいて展開すべきである。

◎ 研修会に思う

名古屋市教育センター指導主事 菱田 功

- ・ 今年度より、教育センター指導主事として研修部に所属しました。
- ・ 私が若いころ、研究会に一年間全出席しようと目標を立て、かなり無理もあったがやればできるものだった。
- ・ 研修会・研究会は、参加者の心構えで意義は大きくなる。参加者自身、目標をもって参加し、意義を高め、成果をあげていただきたい。

P2

今年度の取り組み—各分野における指導上の問題点より

小学校	部会	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級会の指導のポイントの参考例 ・ 発達段階に応じた指導例 	学級会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級会の年間指導計画 ・ 班の編制の仕方 ・ 係活動の意欲化と事後指導 ・ 話し合いを深める指導
<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表委員会や委員会組織化の問題点の洗い出し ・ 問題解決のための実践例 ・ 児童会活動の手引き作製 	児童・生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動のマナー化の解消 ・ 参加意欲を高める生徒会活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級指導の指導展開の事例 ・ 効果的な指導あり方 	学級指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の洗い出しと課題解決のための実践例 ・ 効果的な指導のあり方
クラブ活動 ・クラブ活動実施上の素朴な疑問に対する具体例		
学校行事 ・生き生きと活動させるための課題の洗い出しと効果的な指導のあり方		

P3

研究大会の報告

「全小行研・岩手大会」に参加して

P4

個人研究紹介

活動意欲を育てる係活動の指導 — 活動目標に向かっての取り組みを通して —

思いやりの心を育てる適応指導 — 相手の気持ちの理解を通して —

P5

会員紹介

P6

研究実践紹介

進んで美しい学校にする子を目指して

性教育の手引き改訂に携わって

男

P1

◎ 時は今 ―未来に夢を求めて―

名古屋市教育委員会 指導室 指導主事 奥村 晃

- ・ 昨今の教育事情を考える時、非行問題は避けて通れない。現場の先生の努力で校内暴力等の諸問題は沈静化してきてはいる。
- ・ 非行内容で、いじめの増加・女子の割合増加・非行を生み出す社会状況は変化していない等の問題がある。
- ・ いじめの増加・女子の割合増加の問題については、長期的展望に基づいた特別活動の課題として、子どもが集団に溶け込み、生き生きと活動するための援助が必要である。
- ・ 日々の地道で探求的な教育実践の積み重ねが、子どもたちの相互理解を深め、意欲や自主性を高め、結果として課題解決につながると信じている。

◎ 美しさを見つけ感動する心

名古屋市特別活動研究会 副委員長 岡本 隆

- ・ 大人も子どもも忙しい生活になってきている。自然に親しむことは極めて少なくなっている。
- ・ 身の回りの自然に目を向けてみると、美しい不思議を平凡の中から見つけることができる。何気なく見過ごしていたものから、美しいものや不思議なことを発見し、「はっ」「どきっ」とする心をあたためていくことが大切である。

P2

名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告

- ・ 昭和59年11月7日、特別活動研究協議会が名古屋市教育センターで行われた。
- ・ 提案のテーマ
 - 思いやりの心を育てる適応指導 (小学校)
 - 活動意欲を育てる係活動の指導 (小学校)
 - 進路選択する能力を高める進路指導 (中学校)
- ・ 助言者より
 - 自分だけの研究にならず、校内の先生方の共通認識につながるようにしてほしい。
 - 心を育てる重要性和特別活動の果たすべき役割について、特別活動の実践者集団としての名古屋市特別活動研究会に期待する。

P3

海外研修報告

西ドイツの教育事情

フランス見たまま

P4

研究員・国内留学報告

「内留から感じた特活研究の方向」

P5

会員紹介

P6

教育研究員・教育研究派遣員

教育研究員体験記 「特活の教えが大きな支えに」

教育研究派遣員訪問記 「思いやりと特別活動」

隆

P1

◎ 望ましい集団活動の指導

名古屋市学校教育研究会 特別活動研究部会長 松浦 史郎

- ・ 特別活動の目標を実現していく活動で、集団活動の指導に特活の効果を上げる一番の急所があると思っている。
- ・ 子どもには、集団の中で鍛えられ、練られることが必要だが、今の子どもは、人間として大切な経験が少なく、人間的にいびつな成長になりがちである。
- ・ 望ましい集団活動の指導により、良い集団の経験をさせることが必要。そのためには次の二点
が大切である。
 - 1 教師が子どもの仲間集団の特色、教育的意義を認識し、子どもの自由な人間関係の中で、自分の判断で集団のルールを作り、行動を選択できるような指導助言。
 - 2 自治的な実践態度を育成するには、自治的な活動場面を与えるだけでいい。相互の対立・葛藤・いじめ・自己中心的態度にならないよう、教師の適切な指導。

◎ 勇気と自信を与え、明日への発展を促す朝の会、帰りの会

名古屋市特別活動研究会 委員長 岡本 隆

- ・ 朝の会・帰りの会は、児童生徒にとって学校生活の中で貴重なひとときである。学級の望ましい人間関係を育て、望ましい雰囲気をつくり出す大切な機会である。
- ・ 朝の会は、学校生活のスタートに勇気と自信を与え、学校生活への意欲を育てる。帰りの会は、学校生活の締めくくり明日への発展を約束させる。
- ・ 学級経営上、この時間の運営を適切に位置付け、計画化し、その充実を図ることが重要である。

P2

第20回小学校学校行事研究全国大会大阪府大会の報告

P3

第20回小学校学校行事研究全国大会大阪府大会の提案要旨

P4

研究実践校紹介

あたたかい心の結びつきを深める実践

ふれ合いを深める学年・学級集会活動の指導

P5

個人研究紹介

問題解決への意欲を高める話し合い活動の指導

－ ペア活動を取り入れた慈善活動を通して －

目標達成に向かって実践意欲を高めさせる指導

－ 「自己分析表」「職業調べカード」「進路カード」を使って －

P6

会員紹介

責任者：岡本 隆

P1

◎ 自戒

名古屋市教育委員会指導室指導主事 三林 貞夫

- ・ 教育改革に関する議論が盛ん。「豊かな人間の育成」「自己教育力」を強調した学校教育努力目標を強調して取り組む学校が多い。
- ・ 教育目標の達成にとって、特別活動の担う役割はかなりのウェイトを占める。
- ・ 一方で、いくつかの問題点も指摘されている。今後も特別活動研究会に対する期待は大きい。より充実した研究を期待する。

◎ 一人一人の考えを育てる話合い

名古屋市特別活動研究会副委員長 吉田 光武

- ・ 話合いのポイントは、一人一人が考えをもって参加することであり、そのメリットは、考えが考えを生み出すことにある。
- ・ 特別活動の指導は、子どもたちの実態を踏まえ、ねらいとすることがらについて、切り込み方を工夫していけば、子どもの可能性を引き出すおもしろさがある。
- ・ 話合いが話合いとして成立するように、学級会活動のみならず、学級指導においても工夫していきたい。

P2

名古屋市教育会後援 特別活動研究協議会の報告

- ・ 主 題「豊かな人間性を育てる特別活動」 昭和60年11月12日
- ・ 提案の要旨
 - ① 実践意欲を高める学級指導（小学校）
 - ② 自己教育力を育てる適応指導（小学校）
 - ③ 学級生活向上への実践意欲を育てる学級指導（中学校）
- ・ 指導助言
 - ・ 指導過程の構造を明確に
 - ・ 日ごろの指導を大切に
 - ・ 適応指導の目指すもの
 - ・ 学級指導に当たっての教師の姿勢

P3

海外研修報告

「アメリカ南部の教育事情を視察して」
「北欧の教育事情」

P4

全小行研愛知大会(昭和61年)に向けて

「心のふれ合いを重視し、連帯感を深める学校行事」

教育研究派遣員訪問記

「子供の世界に降りていける教師に」

P5

会員紹介

P6

教育研究員体験記

「もっと、まだと思っても『すばらしい』と認めよう」

内地留学体験記

「特活の深さを感じた内地留学」

責任者：岡本 隆

P1

◎ 全小行研愛知大会の成功を祝う

11回小学校学校行事研究全国大会 愛知大会実行委員長 早川 三雄

- ・ 教師自身の特活・行事の実践
討議と研究を重ね、分担に応じた目標を理解し、自覚と所属感を深め、責任をもって、真剣に取り組んだ体験は、教師自身の行事参加であり、“心のふれあい”と連帯感の行事の実証であった。
- ・ 旧友との語らいの中から
愛知・名古屋の研究と実践は、全国的にみて素晴らしい充実発展をしている。裾野の広がりや質の充実には感心
全般的レベルアップはグループの共同研究。これは愛知名古屋の特長

P2

全小行研を終えて

- ・「むずかしい特別活動」
- ・「研究への若い力と協力」

P3, P4, P5

全小行研・提案の要旨

〈第1分科会・儀式〉

「『あたたかい心』の通い合う卒業式」

〈第2分科会・学芸〉

「いつまでも心に残る学芸会を目指して」

〈第3分科会・体育〉

「共感的理解を深め、思いやりのある人間関係を育てる体育的行事—演じる者と観る者との一体感を目指した運動会—」

〈第2分科会・遠足旅行〉

「思いやりの心を育てるペア遠足—オリエンテーリングを導入して—」

〈第5分科会・保健安全〉

「子どもを主体的に参加させる交通安全指導」

〈第6分科会・勤労生産〉

「働く意欲を高める勤労・生産的行事の展開—委員会活動とのかかわりをもたせて—」

P6

提案発表を終えて、今

P7

全小行研に参加して 一般会員の声

P8

愛教大附属小学校研究発表

「自ら学ぶ力を育てる授業づくり」

責任者：岡本 隆

P1

◎ 特活指導への期待

名古屋市教育委員会指導室指導主事 三林 貞夫

- ・ 理想的な人を「T型人間」と呼ぶ。縦軸は深い専門知識、横軸は知識・経験の広がりを表す。専門部門だけでなく、左右に人間の幅を伸ばしていかなければ一人前の教師とは言えない。
- ・ 縦軸を個性、横軸を社会性(協調性)と考える。個性と社会性との兼ね合いが重要。
- ・ 学校、学級という集団生活にあっては、自分だけのペースで気ままには生きていけない。協調性を持ちながら、個性を伸ばしていく指導が大切。

◎ 特別活動を思う一生徒指導の機能を重視し、特活の活性化を

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 松浦 史郎

- ・ 教育課程の基準の改善に関する中間報告の方向の一つに道徳教育の重視。基本的な生活習慣の指導の重視と、道徳の時間を中心に各教科領域での道徳教育の指導の充実。
- ・ 特活の指導はどうあるべきか。生徒指導の機能を作用させていくべき。
- ・ 生徒指導の機能「子供に自己決定の場を与えること」「子供に十分な自己存在感を与えること」「人間的なふれ合いが大切にされること」
- ・ 道徳教育充実のためには、特活の各内容に対して、生徒指導の機能が、それぞれの特質をふまえながら一貫して作用すること、すなわち生徒指導の機能を一本の軸にしてそれぞれ計画され、活動が実践されることが大切。特活の活性化と特活での道徳教育重視に。

P2

原点にかえる研究集録 児童活動の実践をめぐって

P3

名古屋市教育会後援 特別活動研究協議会の報告—豊かな人間性を育てる特別活動—

1 提案の要旨

「互いに認め合う仲間意識を育てる学級集会の指導」(小学校)

「参加意欲を高める話し合い活動の指導」(小学校)

「一人一人が自発的に参加する生徒会活動の指導」(中学校)

2 指導・助言

・ 集会活動の評価 ・ 話し合い活動の指導 ・ 生徒会活動の指導

・ 日ごろの指導の大切さ ・ 話し合いの充実 ・ 「教育課程審議会」の中間報告

P4

海外研修報告

「能力を引き出し 伸ばすチェコスロバキアの教育」

「一人一人の能力を生かした西ドイツの教育」

『ヨーロッパシュレー』を訪れて オーストリア」

P5

会員紹介

P6

個人研究紹介 教育研究員・国内留学記

責任者：吉田 光武

P1

◎ 特活指導の見直し 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 尾崎 昭典

- ・ 知識や技能の習得にも増して、心の教育・生きざまを、体験を通して指導することが強く要求されている。人間性育成に対して直接かかわりのある実践教育が特活の特質である。
- ・ 小学校での学級指導と学級会の統合、中学校でのクラブ活動の運営等、特活が軽視されあやふやにされそうな動向の中、個々の教師が特活への指導の在り方・その取り組みに対して見直す必要がある。特活があやふやになれば教育の一大事である。

◎ みることの大切さ 名古屋市特別活動研究会委員長 吉田 光武

- ・ 学習の援護者としての教師の役割は、子供に物事を見させることである。学習の主体者としての子供は、見ることによって考えを生み出す。
- ・ 「なすことによって学ぶ」という特別活動の実践では、子供の実情を『見る・視る・診る』ことが大切である。「みかた」は、集団活動を通して、広がったり深まったりする。より好ましい集団活動によって、やる気は育つ。
- ・ 話し合い活動の中で、一人一人の子供に考えを持たせる工夫や広げたり深めたりする工夫、係活動や集会活動の中で、一人一人の子供が、自分の役割を持って参加できる工夫が必要である。

P2

市特別活動研究の取り組み

<研究主題「豊かな人間性を育てる特別活動」>

『学級会活動』

(小学校)「一人一人の心情的な高まりを図る学級会活動」

(中学校)「認め合い、励まし合う学級会活動の指導」

『児童会・生徒会活動』

(小学校)「全校児童の願いや考えを取り入れた児童会活動の試み」

(中学校)「活動意欲を引き出す生徒会活動」

『学級指導』

(小学校)「好ましい人間関係を育てる学級指導」

(中学校)「自主的、実践的な態度を育てる学級指導」

『クラブ活動』

「児童の主体的な活動を促すクラブ活動の指導」

『学校行事』

「児童の参加意欲を高め、満足感を味わわせる学校行事」

P3

研究実践紹介

『開かれた学校づくり』による『豊かな心を持つ児童の育成』
「作る、見る、使う 展覧会」

P4

個人研究紹介

「思いやりのある態度を育てる学級集会活動の指導－『出し合い・認め合い・支え合い』の観点を基にした集会づくりを通して－」

「学級生活向上への実践意欲を育てる学級指導－課題別グループの活動を通して－」

P5

会員紹介

P6

第34回小学校教育研究発表会を終えて トピックス

P1

◎ 特活の教育課程改善と課題 名古屋市教育委員会指導室指導主事 須田 叔男

教育課程審議会「審議のまとめ」から改善点と課題

- ・ 現行の学級会活動と学級指導を統合し、学級活動を設ける
- ・ 学校行事での体験的な活動を一層充実する
- ・ クラブ活動は、部活動をもって代替することを認める
- ・ 儀式において国旗を掲揚し、国歌を斉唱する

◎ 子供に働きかける情熱 名古屋市特別活動研究会副委員長 小島 文三

- ・ 特別活動は、集団の実践活動であるが、集団のみに目を奪われなくて、その中の一人一人を見つめ、同時に一人一人から学び、指導に当たることを忘れてはいけない。
- ・ 集団の中で、一人一人が伸びることは集団が伸びることである。
- ・ 美しいことばの目標をかかげ、形のみうまく処理するものでは、一人一人の子供は活動の中から学ぶことは少なく、生き生きとした自主性も伸びない。
- ・ 「みんなで創りあげた喜び、失敗したとき友達が励ましてくれるうれしさ…」こうした活動の継続、積み上げ。これが学級のたから物になる。

P2

名古屋市教育会後援・名古屋市特別活動研究協議会の報告「豊かな人間性を育てる特別活動」

提案の要旨

- ・ 共に実践する態度を育てる学級指導
実践することが難しい場面を想定させ、実践できるように支援の仕方を話し合わせる。他の児童の目標に対する励まし合いをさせる。
- ・ 思いやりのある児童を育てる学級集会活動
多様な集会に目を向けさせる学級指導と、考えを出し合い、認め合い、支え合って活動する集会とのセット化を図り、教師が指導性を発揮していく指導の在り方を考え実践する。
- ・ 協力し助け合う心を育てる指導
遠足において班全体で取り組める学習課題（学習作品制作）を与え、班内で生徒一人一人に役割を分担させて自分の仕事に責任を持って遂行させれば、協力し助け合う心を育てる遠足ができると考え実践する。

指導助言

- ・ 特活も授業である～ねらいの明確化、自主的に活動できる場面をつくる、行動に移したいという意欲を高める。また、自主性を育てるための適切な指導を。～
- ・ 特活精神を根底にした実践を～時間数の削減が予想される。学級会活動、学級指導、学校行事の混然一体化が大切である。子供たちは未分化、内面的なものを大切に～育つのも待つのではなく、育てていくものである。

P3

全小行研・東京大会に参加して「地域に根ざす学校行事のあり方を求めて」

記念講演 「これからの学校教育に望むもの」 文部事務次官 高石邦男先生

- ・ かつては、「貧に処するの教育」であったが、物質的に豊かな生活環境になった今は、「富に処するの教育」が重要
- ・ 家庭の教育機能の低下や親の養育態度に問題があるような受け止め方をされるが問題の本質はもっと根深いところにあることを見失ってはならない。
- ・ 子供の成長過程には、厳しい環境や試練が必要で、大人たちが意図的計画的につくることが必要

P4

海外研修報告

- ・ スイス雑感
- ・ メキシコの現状を見聞して
- ・ イタリアの教育事情について

P5

会員紹介

P6

教育研究員 国内留学記

出合いを求めて

教育研究員 学校訪問記

子供を思う心に感激

P1

◎ 教育課程編成と今後の課題 指導室 名古屋市教育委員会指導主事 沼田 稔

- ・ 教育課程に例示されている展開例と手引き書の内容との関連を再検討すること。
- ・ 文部省から「教育課程の基準」が告示され、現行の学級会活動及び学級指導を統合して「学級活動」の新設が提示される予定。

◎ 共感的な触れ合いによる特別活動

名古屋市学校教育研究会 特別活動研究部会長 尾崎 昭典

- ・ 信頼関係が前提になれば、教師の指導は子供の中に入り込めず、学級集団の前進も望めない。
- ・ 教師サイドの論理を固執することなく、子供サイドに立ち、何が子供との共感的な触れ合いの素材になるかを見続けていこうとする時、心の交流が生まれる。
- ・ 個々の子供の共感的な触れ合いを通じた学級集団の共感的合意をつくり出すことで学級集団も前進する。

P2

昭和63年度 市特活研究会の取り組み 研究主題「豊かな人間性を育てる特別活動」

部会	小学校	中学校
学級会活動	児童一人一人が学級生活の問題に気付き、自主的に発意して解決方法を考え、協力して実践できる指導の在り方について研究を深める。	形式的に流れがちな活動内容を振り返り、生徒が活動に魅力を感じ、楽しく参加できるような関係について、どんな指導が考えられるかを追求する。
児童会・生徒会活動	学校生活の向上を目指す代表委員会の指導の在り方、活動意欲を高める委員会活動のあり方、全校児童の触れ合いを深める児童集会の在り方を追求する。	活動内容・取り組みの工夫、組織・指導体制の検討などの研究課題を分担し、効果的な指導の在り方について実践研究を進めている。
学級指導	事前の調査活動の生かし方、資料の種類、指導過程の工夫、事後指導の工夫について研究を進める。	適応指導と進路指導の実践を中心に生徒が自分自身を向上させていこうとする指導の在り方を探る。
クラブ	活動方法や目標の持たせ方を工夫し、楽しく活動させるクラブ活動の指導を究明する。	

学校 行事	参加意欲を高める方法、行事を運営していく過程で、児童が関与する面を考慮していく効果的な指導の在り方を追求する。
----------	---

P3

全小行研・京都大会に参加して 「児童の連帯感を深め、感動を高める学校行事」

記念講演 「これからの学校行事における学校行事の課題」

- ・ 人と人との触れ合いから感動を得ることができるような学校行事が重要。
- ・ 触れ合いや自然体験の不足、温かい人間関係の希薄さにこたえる学校行事を。
- ・ 学校行事を家庭や地域活動と深い関連を持たせ、子供たちにどう取り組ませるか
を考えた学校行事を。

P4

研究実践紹介

- ・ 仲よく助け合う子どもの育成
- ・ 児童に共通認識を図るパネルディスカッション

P5

個人研究紹介

- ・ 一人一人の考えを生かす学級集会活動の指導 — 「活動内容別グループ」での実施計画作りを通して—
- ・ 深まりのある話し合い活動の指導 — 複数原案を活動過程に取り入れて—

P6

OB特集 先輩諸兄の温かき励まし

P7

委員長から熱っぽいメッセージ

愛教大附属小研究発表会を参観して

P8

会員紹介

P1

◎ 「学級活動」の充実を願って 名古屋市教育センター指導主事 三輪 一彦

- ・ 学級会活動と学級指導が今改訂で統合された趣旨をよく理解する。
- ・ 関連・共通する部分を子供の発達段階に応じて弾力的に取り扱う。
- ・ 学級活動においても、内容の特質に応じて自発的・実践的な活動が展開されるよう配慮する。

◎ 豊かな心を育てる特別活動 名古屋市特別活動研究会副委員長 豊島 紘

- ・ 教師と子供が共に喜び合い、悲しみ合い、語り合っていきたい。子供の心の中に人の心のぬくもり、堪え忍ぶことを注ぎ込みたい。話し合い活動、係活動、集会活動などが豊かな心を育てる水や肥料になっているか振り返ってみたい。

P2, P3

特集 一度、考えてみませんか！

- ・ 学級会活動部会

<小学校>

議題の中に、金銭にかかわる問題、特定の子供を対象にした問題が含まれていることはないか。子供たちと共に、学級会を見直してみたい。

<中学校>

指導のない活動（生徒の勝手に任せたお遊び）であってはならない。一部の生徒の発言に左右されたり、安易な多数決に流されたりしていないか。

- ・ 児童会活動部会

児童会役員選挙は、直接選挙か。代表委員会の議題はどのように決めているか。集会委員の子供たちの力で集会は行われているか。

- ・ 生徒会活動部会

生徒総会も行われているか。生徒議会や委員会は定期的に行われているか。委員会活動は、学校や教師の下請的な活動になっていないか。

- ・ 学級指導部会

<小学校>

学級指導は、随時行っているからとおろそかにしていないか。学級の実態に合った指導を行っているか。学級指導と道徳の特質を理解した上で指導しているか。

<中学校>

1・2年生から生徒一人一人の希望を実現させていく指導を積み上げているか。生徒がもっている悩みや不安は、一人で悩まず、みんなで解決させることができているか。

- ・ クラブ活動部会

学期ごとの指導の段階が工夫されているか。上級生が下級生に教えたり、相談にのってあげたりする態度面の指導はなされているか。

- ・ 学校行事部会

学校行事を精選するときに学習活動や学校生活への影響を検討しているか。見栄えや結果に関心が向き過ぎ、準備や練習が過剰になっていないか。共通理解は十分か。

P4

名古屋市教育会後援・名古屋市特別活動研究協議会の報告「豊かな人間性を育てる特別活動」

提案の要旨

- ・ 心の交流ができる態度を育てる低学年の適応指導
問題解決の段階では、相手の気持ちを考えた行動に気付かせる絵(行動図)を活用する。意欲化を図る段階では、望ましい行動の仕方の練習をさせる。
- ・ 実践意欲を高める学級集会活動の指導
集会に対して似た考えを持った児童の小集団「アイデア別グループ」を編制し、実施計画を立てさせる。実施計画を全体の場で検討させ、実践意欲を高める。
- ・ 一人一人の参加意欲を高める生徒会活動
学級・生徒議会・実行委員会の活動を結びつける実践で、学級で話し合い、生徒議会で企画の検討、実行委員会で具体的な準備・運営する。

指導助言

- ・ 特活は、児童生徒の自主性自発性を大切にして育てていくという精神を忘れないように取り組むことが大切である。
- ・ 現場の研究では、実践研究を重ね、研究に基づいた実践をどの学校でも活用できるように一般化していくことが大切である。

P5

海外研修報告

- ・ ハンガリー・イタリアの学校を訪問して
- ・ はるかなるユーゴスラビアを訪ねて

P6

個人研究紹介

- ・ 自他の安全を大切にする児童を育てる学級指導
- ・ 児童会活動への参加意欲を高める指導 ―代表委員の輪番制方式を採用して―

P7

教育研究員 国内留学を終えて

安全教育についての研修を深める中で

教育研究員訪問記

ひろい心、豊かな創造力

P8

会員紹介

P1

◎ 新教育課程の実施にむけて 名古屋市教育委員会指導室 指導主事 沼田 稔

- ・ 今回の改訂の中心は現行の「学級会活動」と「学級指導」が統合され「学級活動」が新設される。
- ・ 個性を生かす教育が一層強調される中で、教師の創意・工夫に富んだ指導は、今後ますます求められる。

◎ 学級活動の成果をあげるために

名古屋市学校教育研究会 特別活動研究部会長 若松 義明

- ・ 新設された学級活動で成果をあげるためには、現行の学級会活動や学級指導の特質を十分に理解し、学級の実態に応じて、弾力的に指導することが大切である。そのために、考えてみたいことをあげる。
 学校の指導計画に基づいた学級の指導計画
 教師の創意・工夫を生かした適切な指導
 学級経営との関連
 生徒指導との関連

P2

平成元年度 市特活研究会の取り組み 研究主題「豊かな人間性を育てる特別活動」

部会	小学校	中学校
学級会活動	3点に絞って実践研究を進める。 ・ 充実した話し合い活動にする指導の在り方 ・ 認め合い高め合う係活動の在り方 ・ 成就感を得る集会活動の指導の在り方	「みんなでつくりあげる集会活動の指導」をテーマに、中学校の現状を踏まえた上で、実践研究を進める。
児童会・生徒会活動	全校児童の願いや希望を吸い上げ、活動として具体化していく中で、企画児童と参加児童及び異学年の児童同士が、互いに意見を交わし合い、認め、助け合っていく方法を研究する。	生徒会活動の年間活動計画の見直しを通して、活動内容・取り組みの工夫、組織・指導体制の検討、生徒会と学級とのつながりの在り方などを探る。
学級指導	お互いが思いやりの気持ちを持ち、自分の行動に責任を持つことができるような行動がとれるように「行動化」に焦点をあてた指導の在り方を探る。	適応指導と進路指導の実践を中心に「問題解決の態度を育てる学級指導」をテーマに実践研究を進める。

クラブ	「生き生きと活動させるクラブ活動」をテーマに、リーダー育成の方策を究明する。
学校行事	参加意欲を高めるための手だての工夫や学校行事を運営していく過程で、児童の効果的な参加のさせ方、指導の在り方を追究する。

P3

研究実践紹介

- ・ ふれ合いと思いやりと出会いのある七夕集会
- ・ 互いに助け合い励まし合って、ねばり強く取り組む子の育成

P4, P5

特集 特活とわたし

特活を志しての体験を特集

- ・ 子供たちの輝く顔
- ・ 生徒の力を信じて…
- ・ 特活を志して3年目
- ・ 子供の声で
- ・ 充実感あふれた子供の姿を目指して
- ・ 特活のすばらしさをかみしめる再会
- ・ 特活を志して

P6

個人研究紹介

- ・ 実践意欲を高める係活動の指導 —みんなの願いを大切にしたいアイデアマップの活用を通して—
- ・ 一人一人の良さを生かした係活動の指導 —個性に応じた役割分担を通して—

P7

愛教大附属小研究発表会を参観して

紹介コーナー

研究大会のお知らせ

P8

会員紹介

責任者：峯田 幸夫

P1

◎ 指導に創意・工夫を！ 名古屋市教育委員会指導室指導主事 沼田 稔

- ・ 児童・生徒が生きていくこれからの社会は、科学技術の進展、価値観の多様化、国際化などの傾向がなお、一層高まると言われている。
- ・ 学級活動の指導では、より一層の内容の精選、指導の創意・工夫が必要となる。また、学校・学級の実態にあった指導が要求される。
- ・ 児童・生徒の自主・自立、集団生活への適応を育成するため、なお、一層、研究・実践が行われることを期待する。

◎ 続・学級活動の成果をあげるために 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 若松 義明

- ・ 2学期を迎えるにあたり、今までの実践を振り返り、改めて、指導計画と教師の適切な指導の在り方を見直すことが大切である。
- ・ 年間指導計画の作成については、「①全教師で作成し、共通理解を深めることができたか。②子供の発達段階や生活の実態を踏まえた指導計画になっているか。③時間配分は適切であるか。」を見直す。
- ・ 実施に当たっては、「①教師が指導しなくてもできる議題しかとりあげないということはなかったか。②創意・工夫を生かした適切な指導が展開されたか。」を見直す。

P2

今年度の取り組み

学 級 活 動	小	第一 部会	学級や学校の生活の充実と向上に関する題材に焦点を当て、生活上の諸問題の解決、学級内の仕事の分担処理をする活動について実践研究を行う。 「学級の問題をみんなで解決する学級活動」というテーマで、年間指導計画づくり、及び1時間の効果的な指導の在り方について研究を進める。
	学 校	第二 部会	児童の持つ不安や悩みの解消、望ましい人間関係の育成などに焦点を当てた研究を行う。できるだけ児童による自主的な話し合いを取り入れ、解決する指導の在り方を探っていく。 「温かい人間関係を培う学級活動」というテーマで、児童の実態や発達段階を考慮し、適切な資料の活用や実践に結び付く効果的な指導を考える。
	中 学 校		「問題解決の態度を育てる学級活動」をテーマにして、生活や学習の問題で悩み、学校生活を楽しく過ごせない生徒に、問題を解決する方法を考えさせ、自己実現に結びつけることができるような、適応指導と進路指導の実践研究を進める。
児童 会活			「みんなが生き生きと活動する児童生徒会活動」をテーマに、低・高学年の心の 「活動意欲を高める生徒会活動」をテーマに、学級と議会との連携の在り方に焦点を当てた実

動	触れ合いや低学年への思いやりの気持ちを高めることを手だてとした実践研究を進める。	会 活 動	実践研究を進める。
クラブ 活動	「児童の興味・関心を促し、進んで活動するクラブ活動」というテーマで、異学年集団の心の触れ合いを重視し、「自ら楽しさを求めて活動する」「互いの（変容・成果）を認め合う」ことを中心に研究を進める。		
学校行 事	「児童に参加の喜びを味わわせる学校行事」というテーマで、「どのような手だてを用いたらよいか」「どのような観点でとらえ、評価していくか」ということに絞って実践研究を進める。		

P3

小学校学校行事研究全国大会・神奈川大会の報告

「豊かな心を育む学校行事の創造と展開」

P4・5

座談会

「特活の今・そして夢」

P6

研究実践校紹介

情報社会に生きる人間性豊かな子供の育成

個人研究紹介

自ら進んで取り組む態度を育てる学級活動

P7

全国特別活動研究協議会・東京大会の報告

「新しい特別活動の実践」

P8

会員紹介

責任者：峯田 幸

夫

P1

◎ 会報20号の発刊によせて 名古屋市教育センター指導主事 三輪 一彦

- ・ 創刊号の巻頭を飾る言葉の中で、「啐啄同時」を例にして教師の指導姿勢が説かれ、教師の「指導のし過ぎ」が戒められている。これらの姿勢は、特別活動が「自主的・実践的態度の育成」を主たるねらいとする限り、現在も将来も変わることはない。
- ・ 学級活動においては、自主的活動を体験させることを通してねらいに迫ることが重視されなければならない。そのため、教師には、指導者としてよりも、子供の活動を育てていく援助者としての姿勢が求められている。こうした意味から前述の提言を味わい直してみたい。

◎ 改訂の意義を考える 名古屋市特別活動研究会委員長 峯田 幸夫

- ・ 学級活動の新設は、単に、学級会と学級指導をミックスすればよいわけではない。学級活動の意義・利点を考え、今まで以上に指導法を考え、工夫しなければいけない。題材の取捨選択をし、児童生徒指導の充実、かかわりを考えた指導が必要になる。
- ・ 体験的な活動を重視することが大切。集団宿泊・奉仕及び勤労生産にかかわる体験的な活動が学校行事に明確に位置付けられた。修学旅行の在り方を考える必要がある。
- ・ 中学校の学級活動では、進路指導が明確に位置付けられた。生徒に将来の展望・夢を持たせるため、1年生からの計画・指導が必要となる。

P2

名古屋市教育会後援研究協議会の報告

小 学 校 部 会

〈実践発表〉

- ・ 「好ましい人間関係を育てる学級活動」
友達と一緒に遊んだり、練習したりすることによって、知り合い、分かり合い、助け合う方法を定着させる「ふれあい活動」を学級活動の活動過程に位置付けた。その結果、あいさつをし合ったり、良い点を分かり合ったりして、仲良く生活できるようになった。
- ・ 「児童会の一員としての自覚を高める代表委員会活動」
4年生以上の児童全員に代表委員会に参加させるグループ輪番制を導入し、「インタビュー活動」の指導と「伝言カード」を活用して実践を行った。その結果、実際に自分が代表委員として代表委員会に出席し、その役割を果たす活動を通して、児童会のために頑張ろうとする気持ちを高めることができた。

〈指導・助言〉

- ・ 「ふれあい活動」は、児童の発達段階をよく考えており、児童が楽しい活動をする課程で、知らず知らずのうちに友達ができるよい実践である。
- ・ 代表委員会に輪番で出席させることは、すべての児童に基礎・基本的内容を体験させることになり、先導的な試みで興味深い。指導に当たり、発想の転換も大切である。

中 学 校 部 会

〈実践発表〉

- ・ 「進路選択力を育てる学級活動」
望ましい職業観に基づいて、将来の目標を立てさせることが必要であると考え、指導した。その結果、生徒は望ましい職業観をはっきり持ち、職業を通して何がしたいのかを述べることができるようになった。

〈指導・助言〉

- ・ 生徒に考える観点を与えて、職業への多様な考えを引き出している。転職や高校の中退が増加しており、進路指導の問題でもある。組織的、計画的な指導が大切である。

P3

研究実践校紹介

“八熊っ子”のふれあいの輪を広げよう
課題を解決できる生徒の育成

P4

会報に思う

P5・6・7・8

特集 市特活の歴史を振り返る

P9

個人研究紹介

人間関係を深める縦割り全校集会
実践意欲を高める学級活動

P10

研究員国内留学の報告

P11

教育研究派遣員・学校訪問記
特別活動Q & A「進路指導のポイント」

P12

会員紹介

責任者：河村 卓巳

P1

◎ 先駆的・実践的研究に期待する 名古屋市教育委員会指導室指導主事
一柳 岩宏

- ・ 今回の教育課程基準改善の一番目の柱となった「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」は、その多くが特別活動という体験的な学習活動においてできるものであると言っても過言ではない。特別活動の果たす役割の大きさとともにその責任は大きくなっている。
- ・ 今や理論の段階でなく、実践の時である。新学習指導要領の精神を具現できるのは、各学校の先生方の意欲的实践以外にない。どんな高邁な論理も、各学校での先生方の地道な実践・努力なくしては成り立たない。市特別活動研究会への期待は大きい。

◎ 早川三雄先生の教訓 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長
梅 村 勝

- ・ 特活研究会の生みの親である早川三雄先生は、「総ての判断の基礎は、児童・生徒の真の幸せに置く。」という言葉が述べられている。大人の社会のさまざまな約束事や取り決めが優先して、子供たちが取り残され、しわ寄せを受けるようなことがあってはならない。
- ・ 今の子供たちは物が一杯あるのに、何かしら食い足りない表情を隠しきれずにいる。「児童・生徒の真の幸せ」についてもう一度じっくり考えてみないと、新学習指導要領の精神も、さまざまな制度の改革のねらうものも、生きてはこないように思う。

P2

今年度の取り組み

学 級 活 動	小	第一 部会	学級や学校の生活の充実と向上に関する題材に焦点を当て、生活上の諸問題の解決、学級内の仕事の分担処理をする活動について実践研究を行う。 「よりよい学級生活をみんなでつくり上げる学級活動」というテーマで、児童の自発的・自治的な活動を促すための教師の助言の在り方や、話合いの展開の方法について研究を進める。
	学 校	第二 部会	学校生活を営む上で起こるさまざまな問題や悩みを解消し、望ましい人間関係を育てるために、児童が主体的に問題解決していこうとする意欲を高める。 「温かい人間関係を培う学級活動」というテーマで、資料の収集場面や問題解決の話合い場面に、児童の自主的な活動を取り入れるなど、指導を工夫する。

中 学 校	「問題解決の態度を育てる学級活動」をテーマにして、生活や学習の問題で悩み、学校生活を楽しく過ごせない生徒に、問題を解決する方法を考えさせ、自己実現に結びつけることができるような適応指導と進路指導の実践研究を進める。		
児 童 会 活 動	「みんなが生き生きと活動する児童会活動」をテーマに、生き生きと活動するための手だてに焦点を当てて、研究を進める。	生 徒 会 活 動	「活動意欲を高める生徒会活動」をテーマに、生徒会と学級との望ましい在り方について実践研究を進める。
ク ラ ブ 活 動	「児童が興味・関心を持ち、楽しんで活動するクラブ活動」というテーマで、一人一人を大切にし、クラブの特質を生かした指導を心掛け、一年間の具体的な活動の展開例を追いながら、集団にとけこめない児童への指導を中心に研究を進める。		
学 校 行 事	「感動と喜びを味わわせる学校行事」というテーマで、「感動を与える行事をどのように工夫して計画したらよいか」「参加の喜びを味わわせるためには、どのような工夫をしたらよいか」ということを中心に実践研究を進める。		

P3

全国小学校学校行事研究会・宮城大会の報告

P4

特集 学級活動となつて

「題材のとらえ方」

「自主的・実践的な活動にするための工夫」

P5

研究実践校紹介

「ふるさとの心」を持つ児童の育成

豊かな心を持つ児童の育成

P6

個人研究紹介

共に活動する意欲を高める学級集会活動

好ましい人間関係を育てる学級活動

P7

全国特別活動研究協議会・東京大会の報告

P8

会員紹介

責任者：河村 卓

E
P1

◎ 特別活動と新しい学力観 名古屋市教育センター指導主事 三輪 一彦

- ・ 新しい特別活動では、一人一人の子供が有りのまま自己を見いだし、主体的に生きる力を身に付けるために、個々の子供の関心・意欲・態度を基盤として、思考力・判断力・創造力を働かせ、主体的に生き、学ぼうとする意欲や態度などを包括して学力としてとらえることが大切になってくる。
- ・ 特別活動においても、読み・書き・計算と同じように、話合いの進め方やリーダーシップなども、集団活動に必要な基礎・基本として、一人一人の子供に応じて身に付けてやることが求められている。特別活動で育てる学力を、目標や基本的性格を手掛かりにして吟味し、授業を通して、すべての子供に定着させていくことが必要である。

◎ 評価について考える 名古屋市特別活動研究会委員長 河村 卓巳

- ・ 特別活動の評価は、「集団の発達過程のみならず、一人一人の児童生徒の活動状況を評価する」「児童・生徒の長所を取り上げ、長所を伸ばす観点で評価する」「性急な干渉や援助は避け、日々の活動を温かく見守る」「活動の成果のみならず、関心、態度の変容をとらえるため、活動の過程を評価する」ことが必要である。
- ・ 上記のことは、従前より心掛けてきた事柄ばかりだが、十分実践できたかとなると疑問符がつくのではないか。評価のための評価に終わらないように評価を進めることが大切である。

P2

名古屋市教育会後援研究協議会の報告

小 学 校 部 会

〈実践発表〉

- ・ 「学級生活向上への意欲を育てる係活動」
みんなに共通した学級生活向上の問題は何かをとらえさせ、その解決に向け、みんなで考えを出し合って活動させていくために「アイデアマップ」を活用した。その結果、学級をより良くしようと考えて行動する生徒が多く見られるようになった。
- ・ 「持ち味を發揮させる学級活動」
持ち味を生かした役割をピースに記入し、実際に生かすことができた時、ジグソーパズル式にはめ込み認め合わせた。その結果、児童の互いの持ち味を認め、生かし合おうとする意識の高まりが見られた。

〈指導・助言〉

- ・ アイデアマップは、児童に集団と個の関係を体系的につかませる上で、すばらしい着想であり、大変効果的であった。
- ・ ジグソーパズルは、持ち味を「掘り起こすー生かすー認め合う」という3段階で發揮・伸長させる上で、有効に働いたといえる。

- ・ 結果以上に、そこに至るまでの過程で子供をどう動かすかが、現代の教育の重要課題であり、特活が今後も追求していくべき課題である。

中学校部会

〈実践発表〉

- ・ 「自主的態度を育てる学級活動」
自分の立場や役割など自己理解させた上で、それを基にした行動目標づくりをさせ、喜びを味わわせ自信をもたせる評価活動の充実に努めた。その結果、自信をもち進んで活動する生徒の姿が多く見られるようになった。

〈指導・助言〉

- ・ 自分にかかわりのある課題を、確かな自己理解に立って具体的行動目標として取り組ませたことは、生徒の自信や意欲につながった。

P3

小学校学校行事研究全国大会・大阪大会の報告

「創意を生かした新しい学校行事の創造」

P4

特集 中学校の学級活動

P5

海外研修報告

一人一人の能力を生かすカナダの教育
個性尊重の国・アメリカの学校を訪問して

P6

個人研究紹介

実践意欲を高める学級集会活動
自立した子供を育てる係活動

P7

研究員国内留学の報告

教育研究派遣員・学校訪問記

P8

会員紹介

責任者：熊田 高廣

P1

◎ 特別活動の特質と評価の在り方 名古屋市教育委員会指導室指導主事 一柳岩宏

- ・ 昨年度指導要領が改訂されたことにともない評価の見直しが必要となっている。
- ・ 特別活動は「望ましい集団活動」を基盤にした教育活動であるから、指導や評価は集団と個のかかわりをみていくことが大切となる。
- ・ 「なすことによって学ぶ」という「実践的な活動」を目指した教育活動でもあることから、活動や行動、態度の面から変容をとらえることが大切である。
- ・ 「自主的な活動」を助長する教育活動でもあることから、いかにして活動の意欲を高め、自主的な活動を展開させるかが大切になる。

◎ 「共に学び・共に育つ」教育の実践

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 山田榮治

- ・ 「教える教育から育てる教育へ」
 今までの知識の伝達に偏りがちで画一的であった教育から、生涯学習の基礎を培うものとして、自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成を重視している。
 そのためには、子どもの発達段階に応じて必要な知識や態度を身に付けさせることを通して、思考力・判断力・表現力などの能力の育成を学校教育の基本に据えることが大切である。
- ・ 「より魅力ある開かれた学校づくりを」
 教育の本質の一つは「認め・励まし・高め合う」ことであり、生命・生きることの大切さを教えることである。
 私たち教師は「温かみある優しさと厳しさ」をもって、子どもや親・地域社会から尊敬され信頼されるように心がけ、創意工夫をこらした魅力ある開かれた学校づくりを目指すべきである。

P2

4年度 市特活研究会の取り組み 「豊かな人間性を育てる特別活動」

学 級 活 校	小	第一部会	「よりよい学級生活をみんなで作る学級活動」をテーマに、市の教育課程に示された題材名や展開例を参考に、自発的・自治的な活動を促す教師の助言や援助の在り方、活動の展開方法、評価の仕方について研究を進めていく。
	学	第二部	「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること」では、教師の意図的、計画的な指導により解決される。そこで、市の教育課程に示された題材名や展開例を参考にしながら指導案を作成するとともに、実践化を促

動	会	すための効果的な指導法について実践研究を進めていく。
中 学 校		「人間としての生き方に関する指導の在り方」について実践研究を進める。 (1) 人間としての生き方に関する指導の題材配列 (2) 活動の開始、展開、まとめの指導過程に基づく指導案 (3) 事前の指導と準備、事後の指導の工夫など。
児 童 会 活 動	「全校児童の意欲を高める代表委員会の組織づくりと話し合い活動」「全校児童との連携を図る委員会活動」「全校児童の交流を深める児童会集会活動」に焦点をあて、効果的な指導の在り方についての研究を進める。	生 徒 会 活 動
ク ラ ブ 活 動	かかわりが希薄になりがちであるクラブ担当者と学級担任とどのように連絡を密に取り合っていくか、学級担任から得た情報を一人ひとりの指導に生かす工夫の研究を進める。	
学 校 行 事	儀式的、学芸的、健康安全・体育的、遠足・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的行事について、体験的な活動をどのように取り入れるとよいかを指導案作成→実践→反省という形式で研究を進めていく。	

P3

第36回全国特別活動研究協議大会・東京大会

「豊かな心をもって、主体的に生きる力を育てる特別活動」の報告

P4

特集「新しい特別活動の目指すもの」 見通しをもった創意工夫ある学級活動に

P5

個人研究の紹介 児童会活動とクラブ活動

P6

研究実践校紹介 相手を思いやる児童の育成

「ひろい心」をもつ児童の育成

P7 個人研究紹介

P8 会員紹介

責任者：熊田 高廣

P1

◎ 今問われる集団の中で生きる個とは 名古屋市教育センター指導主事 山田 宏

- ・ 新学習指導要領では、集団を基準として進めてきた教育の中に「個性重視の原則」を盛り込んだことが特徴である。
- ・ 特別活動における新しい学力観とは「活動しようとする意欲」「活動の仕方」「活動して得られたもの」を学力とするという点である。
- ・ 集団の中で個を生かす観点には、集団活動に取り組みさせる中で、自己理解を促すことが大切である。

◎ 「なすことによって学ぶ」を考える 名古屋市特別活動研究会委員長 熊田高廣

- ・ 「なすことによって学ぶ」主体は子供たちである。
- ・ 望ましい集団活動を目指す場合、「子供たちの興味・関心」を中心にするのが今まで以上に必要となってきた。
- ・ 子供たちは今ここまでできる、集団としてはこの段階までできているというように、子供のよさに視点を置いた実態の捉え方が必要である。
- ・ 新しい学力観に立ち、助言・支援を考える必要もある。

P2

提言 学校週五日制で特別活動が果たす役割

P3 名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告
豊かな人間性を育てる特別活動

- 学級生活向上への意欲を高める係活動
- 個の活動意欲を高める係活動
- 一人一人のやる気を育てる学級活動

P4 特集 学級活動における評価の在り方 新しい学力観にたつ評価について

P5 評価計画について 集団の評価について

P6 個人研究紹介

P7 研究員・国内留学を終えて 教育派遣員・学校訪問記

P8 会員紹介

責任者：梶田 武

P1

◎ 『子どもを生かす』って何だろう 名古屋市教育委員会指導室指導主事 梅本哲男

- ・ 互いのよさを認め合う学級の雰囲気づくりは、教師が子ども一人一人のよさを積極的にとらえることから始まる。
- ・ よさは、関心や意欲、思考や判断、技能などに表れる。子ども一人一人が友達と協力してさまざまな活動に取り組む過程をとらえ、よさを見出し、生かし伸ばすよう支援していくことが大切である。
- ・ 集団活動を特質とする特別活動の学校教育の中に占める役割はますます大きい。

◎ 「認め、励まし、高める」集団の活動

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 細井 堯

- ・ 学校現場では課題が山積している。学習指導要領に基づく授業時間数確保のための学校行事の精選、学校教育と家庭・地域との連携など様々である。
- ・ 学校行事の精選については「学校行事の機能を高める」という発想の基に、次の視点で見直すことが大切である。
 子どもの主体的な活動を取り入れ、思いや願いを引き出す。
 全体的な出来映えよりも、活動の過程を重視し、一人一人のよさを生かす。
- ・ 一人一人を「認め、励まし、高める」集団は、教育活動を支え、そこからにじみ出る力こそ、子供の自己実現に役立つものであると信じる。

P2

平成5年度 市特活研究会の取り組み 「豊かな人間性を育てる特別活動」

学級 活動	小学	第一部会	「学級や学校の生活の充実と向上」に向けて、児童の思いやよさを十分に生かしながら、生活上の諸問題の解決や仕事の分担処理などについて実践研究を進めていくことが大切である。市の教育課程に示された題材や展開例を参考に、活動の展開方法、評価の実際の在り方について研究を進めていく。
	中学校	第二部会	日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関する題材に焦点を当て、教師の意図的、計画的な指導を基に、児童の自主的な取り組みを重視する中で、一人一人の実践意欲の向上を図る必要がある。そこで、市の教育課程に示された題材名や展開例を参考にして指導案を作成していく中で、評価の観点と方法について実践研究を進めていく。
	中		「自己指導力を育て、生き方を学ぶ学級活動」をテーマに、評価に視点を当

学校	てた指導細案を作成し、実践する。その中で「関心・意欲・態度」の能力を重視し、「思考力・判断力」を育てる研究を進める。	
児童会活動	児童のよさを伸ばしていく観点から指導案を作成する。そして、学級活動・代表委員会活動・各種委員会活動・児童会集会活動の各分野で、児童の変容を明確にとらえるための評価の在り方について実践研究を進める。	生徒会活動 活動意欲を高めるために、学級活動・生徒議会・生徒集会での生徒の思いや願いをどのように取り上げたらよいか、どのように生かしていくか実践研究を進め、活動意欲を高める評価の在り方について明らかにしていく。
クラブ活動	「計画、運営に関する話合いの場面」「共通の興味・関心を追求する場面」「クラブの成果を発表する場面」などの指導案を作成し、児童自ら活動する指導の在り方について実践研究を進め、「評価の観点と方法」の具体的な手だてを明らかにしていく。	
学校行事	一人一人が生き生きと活動することができるように指導案を工夫する。児童のよさをどのようにとらえ、それをどのように伸ばしたらよいかなどの評価についても実践し、研究を進めていく。	

P3

第37回全国特別活動研究協議大会・静岡大会

「主体的に生きる力を身につける特別活動」の報告

P4

特集「子供のよさや可能性を生かす評価について」

P5

個人研究の紹介

P6

研究実践校紹介

ふれあいを深める全校集会

互いを励まし合える児童の育成

P7 個人研究紹介

P8 会員紹介

責任者：梶田 武

P1

◎ 新しい学力観における学力のとらえ方 名古屋市教育センター指導主事 山田 宏

- ・ 新学力観では、子供の情意面が強調され、関心・意欲が重視されることとなった。
- ・ 関心・意欲を高めることは、子供自らが考える活動を、試行錯誤しながらつくり上げる活動を引き出し、情意面の変容がより多く期待できる。そのため、自ら問題を見付け、考え、判断する力を育成でき、社会の変化に主体的に対応できる生涯学習の基礎となる学力を養うことになる。
- ・ 学習のどの段階においても、常に関心・意欲を高めることをねらう意欲目的論を今後の学級活動の中で積極的に推進されることを提唱したい。

◎ 一人一人を見据えた支援を 名古屋市特別活動研究会委員長 梶田 武

- ・ 特別活動は集団活動である。担任の支援の在り方によって、望ましい集団活動が行われ、個の伸長が期待できる
- ・ 集団活動といって個が埋没してしまってはいけない。どのような似た状況でも、支援の在り方は、その都度異なっているはずである。
- ・ 画一的な指導に陥らないように、一人一人を見据えた支援こそ大切である。

P2

提言 学校週五日制における特別活動のかかわり

P3 名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告

豊かな人間性を育てる特別活動

- 友達関係の深まりを目指す学級集会活動
- 活動意欲を高める係活動
- 問題解決に意欲的に取り組む態度を育てる学級活動

P4 投稿

評価から支援への私の試み

P5 海外研修の報告

国内留学を終えて

P6 教育派遣員・学校訪問記

P7 個人研究紹介

P8 会員紹介

責任者：加藤 唯明

P1

◎ 特活主任への期待 名古屋市教育委員会指導室指導主事 梅本 哲男

- ・ 自分自身の実践上の課題を常に明らかにしておくこと。
- ・ 指導計画の改善には、責任をもつこと。
- ・ 教務主任の先生と連携して、常に全員の先生に働きかけること。
- ・ 資料や情報をドンドン提供すること。
- ・ 率先して授業を公開すること。
- ・ だれよりもこの分野に精通すること。

◎ 研究実践の発想の転換を！

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 清水 敏宏

- ・ 特別活動を研究実践している若い先生のレポートを読むと、実に詳しく具体的に書かれている。しかし、欠点が浮き彫りにされ、その欠点をこうした方法でこう指導していきたいという型が目につく。子どもの欠点を見つけることは簡単だが、優れている点を見つけるのは難しい。
- ・ 子どものよさを見つけるには、一人一人を細かく観察し、よさを中心としたプロフィールを作る必要がある。
- ・ 子どものよさを見つけ、それを伸ばすための支援の在り方が研究実践の視

P2

特集 一人一人のよさを生かした学級活動の工夫

思いや願いを生かす話し合い活動の指導

P3

特集 一人一人のよさを生かした学級活動の工夫

思いや願いを引き出す事前の指導

思いや願いを高める事後の指導

P4

研究会の動向

<研究主題>

豊かな人間性を育てる特別活動

—一人一人を生かす指導と評価の在り方—

P5

特色ある実践紹介

主体的に活動する生徒の育成

—社会や地域に目を向けた生徒会ボランティア活動を通して—

安全に行動できる力を育てる学級活動

—危険を予知し、回避する話し合いを重視して—

P6

特活情報

<第38回全国特別活動研究協議大会に参加して>

望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を育てる特別活動

—集団の中で、自分らしさを発揮する児童・生徒の育成をめざして—

会員紹介

責任者：加藤 唯明

P1

◎ 自己決定の在り方を見直す 名古屋市教育センター指導主事 山田 宏

- ・ 学級活動の授業では、終末段階における子どもの意志決定の在り方が最も大切である。この決定が次の活動への価値を見出し、内発的な活動意欲を喚起することにつながる。
- ・ 子どもにとって意義がある終末段階を迎えるためには、「教師が題材観をしっかりとつこと」と「子どもの思考を拡散的に出し合わせる工夫をすること」が必要である。

◎ 教師の支援

名古屋市特別活動研究会委員長 加藤 唯明

- ・ 「支援とは、子ども自身が自分がどうすればよいかと考え、選び取り、行動するように仕向けるものである」と言われるが、具体的に、その支援がどうあるべきなのかがはっきりとつかめない現状がある。
- ・ 何のための支援かをはっきりとさせておくことが必要である。
- ・ 実際の支援については、育てたい子どもの姿から評価規準を設定し、その評価規準を基に考えていくことができる。

P2

特集 一人一人を生かす指導の工夫 —評価規準の設定と支援の在り方—

育てたい子ども像と年間の評価規準

P3

特集 一人一人を生かす指導の工夫 —評価規準の設定と支援の在り方—

事前における支援の在り方

本時における支援の在り方

P4

研究会の動向

<名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告>
豊かな人間性を育てる特別活動

P5

特色ある実践紹介

協力する態度を育てる学級集会活動
—仕事の進み具合に応じた働き掛けを通して—

願いの実現を図る学級活動
—実現の姿を想定した『願い日記』の活用を通して—

P6

特活情報

<海外研修の報告>

アメリカ合衆国における教育事情
—アメリカ合衆国の東海岸地方において—

会員紹介

責任者：渡辺 正明

P1

◎ **生きがいにつながる豊かな体験を**

名古屋市教育委員会指導室指導主事 梅本 哲男

- ・ 失敗のない人生なんて、何とかを入れないコーヒーみたいなもの。失敗から学ぶことが大切。
- ・ ある学校では、学校行事实践のポイントを3つ決めている。
 - ① 計画段階から児童が参加し、児童の発想を生かす。
 - ② 間違ふことも尊重し、児童に活動方法を選択させる。
 - ③ 失敗を恐れず、児童相互のやりとりを促す。
- ・ 児童生徒が日々の暮らしの中で、生きがいにつながる豊かな体験を積み上

◎ **全特活豊橋大会に期待する**

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 清水 敏宏

- ・ 平成8年8月6日・7日の2日間、豊橋市で全国特別活動研究協議大会が開かれる。その中間報告では、「たくましく生き抜く力を育てる特別活動」の研究主題を掲げ、一人一人の子どもが自己のよさを発揮しながら主体的に問題解決に取り組むことができる資質や能力を育てることに視点をおいた教育の今日的課題から、特別活動を問い直し、今後の研究実践への方向付けを考えている。
- ・ 大会の目玉として、「すきとおれ！川と心」のスローガンの基に、母なる豊川活動推進事業が報告される。特別活動が環境教育とどうかかわっていくか、

P2

特集 学校週5日制と特別活動 ー効果的な指導法を目指してー

事前活動の効果的な指導を目指して ー輪番制による計画委員会ー

P3

特集 学校週5日制と特別活動 ー効果的な指導法を目指してー

他教科との連携を目指して ー合唱発表会への取り組みー

P4

研究会の動向

<研究主題>

豊かな人間性を育てる特別活動

—いじめや不登校のない温かい集団風土づくりを目指して—

P5

特色ある実践紹介

一人一人の考えを生かす学級活動

—学級への役立ちという観点での話し合いを活動案づくりに取り入れて—

学級の願いを実現する学級活動

—集団活動への見通しをもたせる指導を通して—

P6

特活情報

<第39回全国特別活動研究協議大会に参加して>

これからの教育に果たす特別活動の役割

こちら特活デスク

児童会選挙は 今

責任者：渡邊 正明

P1

◎ **生きて働く力を育むために** 名古屋市教育センター指導主事 今川 雄二

- ・ 新しい学力観と言われてからかなりの時がたつ。今、一人一人のよさを生かすために教師が身につけなければならないことは、カウンセリング・マインドを生かした態度である。子どもをかけがえのない人間として尊重すること（受容）と、子どもの立場になって子どもの内面を理解しようとする（共感）で、子どもの心の居場所となるようなよい人間関係をつくることである。
- ・ カウンセリングマインドを生かす手立て
 - ① 存在感を大切にす。

◎ **個が生きる集団活動** 名古屋市特別活動研究会委員長 渡邊 正明

- ・ 個性を伸ばすことは大切だが、それ以上に、個の違いを認め合うことが大切。互いが互いの違いに気づき、なおかつ、それを率直に認め合うことが大切。
- ・ 特別活動の目標の一つに「社会性の育成を図る」が挙げられている。そういった意味で、子どもたちの活動そのものを見直してみるべき。集団活動における個々の役割や機能にその子の特徴が生かされ、適度な責任が負わされているか。また、その活動を通して互いに理解し合い、認め合えるように活

P2

特集 学校週5日制と特別活動 —家庭や地域とのかかわりを目指して—

地域文化とのふれあい —伝統産業「絞り染め」の活動を通して—

P3

特集 学校週5日制と特別活動 —家庭や地域とのかかわりを目指して—

地域の人々の生きざまとの出会い

—生きざまを調べ、生き方を見付ける活動を通して—

P4

研究会の動向

<名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告>
豊かな人間性を育てる特別活動

P5

実践紹介

地域にかかわろうとする態度を育てる児童会活動
—学区清掃を通して—

自己実現を目指す進路指導
—毎日の生活に喜びを見出す活動を通して—

P6

特活情報

<海外研修の報告>
アメリカの教育事情を視察して

こちら特活デスク

クラブ活動の所属決定をどのように…

責任者：粕谷明弘

P1

◎ 子どもに感動体験を 名古屋市教育委員会指導室指導主事 天野博光

- ・ 幼少期から自分の役割や分担をもち、さまざまな感動体験を積み重ねて成長した人は、いつまでも生きがいをもち続け、豊かな人生を過ごすといわれている。
- ・ 「なすことによって学び、さまざまなことを身につけていく」特別活動が、日々の指導の中で子どもたちの生きがいをはぐくんでいくことを期待しています。

◎ 特活雑感 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 中野延通

- ・ 第15期中教審答申の総合的学習時間構想の中味は、国際化・情報化・科学技術振興などが柱となっている。
- ・ しかし、新しい時代の教育がどう変わろうと、特別活動の底に流れるものは、ヒューマンリレーションであることには変わりがないのである。

P2、P3

特集 小学校教育課程の編成にあたって 「豊かな人間性を育てる特別活動」

P4 研究会の動向 「豊かな人間性を育てる特別活動」

－ いじめや不登校のない温かい集団風土づくりを目指して－

研究会	学級活動第1	学級生活の向上と充実を図る活動に子ども一人一人が進んで参加し、みんなと協力して楽しくできる展開の在り方を工夫し、自己実現する喜びや連帯感、所属感を味わわせたい。
	学級活動第2	自己評価や相互評価の活動を通して、子どもが自己理解を深め、自己の存在に価値を見いだしたり、他のよさを認めたりする態度を身に付けるための効果的な指導の在り方を追究していく。
	学級活動 中学	学級活動を中心として、様々な活動場面で、どのようにして子どもが自分（自己）と相手（他者）との能力・性格等資質の違いを受け入れながら、それぞれよさに気づき、認め合っているかを追究する。
	児童会活動	温かい人間関係を築くために、必要な態度や能力を明らかにし、異学年のふれあいを通して、子どもが確実に身に付けていくことのできる活動の在り方を求めていく。活動時間をいかに設定していくかどうかも研究を進める。
	生徒会活動	子どもが自分のよさを発揮して、活動の企画や運営に参加したり、互いの考えの違いを認め合い、よりよい活動へと築き上げる場面を設定し、温かい集団風土づくりを目指す。

クラブ活動	クラブ活動の特質を生かしながら、願いや思いを実現する活動過程の工夫、互いのよさや違いの認め合いに重点を置いて研究を進める。
学校行事	地域の人々と心の交流ができる行事に焦点を当て、事前・事後の効果的な指導の在り方とはどのようなものか探っていく。
調査 研修 部	特別活動でどのような子どもが育つとよいか、特別活動で身に付く学力とはどのようなものかについて追究し、名古屋市特別活動研究会として、どのように研究を推し進めていくべきかを明らかにしたいと考える。

P5

実践紹介

P6

特活情報 「第40回全国特別活動研究協議大会（豊橋大会）に参加して」

責任者：粕谷 明弘

P1

◎ 活動意欲がメイクドラマに 名古屋市教育センター指導主事 今川 雄二

- ・ オーストラリアの小学校に自分たちのことを知らせようという学級会を参観した。「送るのにはお金がかかる」「食べ物は腐ってしまう」などという意見が出る中、「送るものと伝えることは分けて考えよう」という意見から、活動内容が決定していった。そしてこの話合いが、「国語」「図工」「家庭科」といった他教科の活動へと広がっていった。
まだ見ぬオーストラリアの小学生に、自分たちのことを知らせたいという

◎ 生きる力を育むために 名古屋市特別活動研究会委員長 粕谷 明弘

- ・ 平成8年7月、中央教育審議会から出された第1次答申の中で、「生きる力」を育むことが大切であると述べられている。この「生きる力」は、特別活動が目指す能力そのものであり、今後ますます、特別活動が重要になってくる。
- ・ 月2回の学校週5日制により、現実には学校行事が削減されている。ただ単に行事を削減するのではなく、「なぜこの行事を行うのか」「この行事を通

P2

特集 今 求められている特別活動 =調査研修部より=

活動で育てたい力

- ・ 活動意欲は永遠のテーマ
- ・ 集団への寄与から個人の成長へ
- ・ 「生きる力」を育てるために

P3

特集 今 求められている特別活動 =調査研修部より=

いじめを考える

- ・ 人間のもつ攻撃性
- ・ 攻撃性を連帯性へ

P4

研究会の動向

<名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告>
豊かな人間性を育てる特別活動

P5

実践紹介

活動意欲を引き出す学級活動

—低学年の話合いにおける事前の活動を重視して—

自己を生かす力を育てる学級活動

—自己理解を活動に結び付ける指導を重視して—

P6

特活情報

キーワード 生きる力 国内では 海外では

平成9年度全国研究大会のお知らせ

P1

◎ やりとり

名古屋市教育委員会指導室指導主事 天野 真材

- ・ これからの学校教育では、子どもたちの「生きる力」を育てることが期待されている。子どもたちの、創造性を開発したり、豊かな心を育てたりすることをさらに充実させていくことが大切である。
- ・ 教師が温かく見守る中で、子どもたちは「できた!」「よかった!」といった成就感を味わい、笑顔を見せることができる。学校教育では、先生と子ども、子どもと子ども、さらには先生と先生の“やりとり”がすべての基本となっている。

◎ 仲間とともに

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 箕浦 国夫

- ・ 「生きる力」を育てることは、21世紀を担う人づくりを目指す新しい教育のねらいであり、私たち教育に携わる者に課せられた使命である。
- ・ 子どもをしっかりと見据えた実践を積み上げると同時に、先輩や仲間との話合いに積極的に参加し、「特活」を通しての人間形成についての知識を深め、「特活」への情熱を高めていくことで、実践研究はまともになっていくものである。
- ・ 「生きる力」とは何か、どう育てていくか、指導のポイントはどこかなどについて、みんなの創意や工夫と知恵を出し合い、仲間とともに実践研究を積み上げていくことを期待する。

P2・P3

生きる力を育てる特別活動の指導の工夫

- 生きる力の育成につながる実践例
～“体験の重視”と“願いの重視”の点から工夫した特別活動～

“体験の重視”で

- ① 世界のあいさつを体験!
 - ・ 世界のあいさつを実際に体験し、あいさつがどこの国でも人と人の心をつなぐ大切な役割をしていることに気付くようにする。
- ② 職場訪問の見直し
 - ・ 仕事内容を調べる活動に留まらず、働く意義についても考える活動にする。
 - ・ 身近な地域の企業を訪問し、地域に密着した活動にして関心を高める。

“願いの重視”で

- ① 子どもにとって魅力的な係活動
 - ・ 児童の発想を引き出し、個性的な係を認める。
 - ・ 係の人数制限をなくし、所属希望をすべて認める。
 - ・ 活動意欲の変化に応じ、学期途中の再編制や複数の係への所属を認める。
- ② 「言い出しっぺ」が動く児童会
 - ・ 議題ポスト等で提案、計画委員会で検討、最後に代表委員会で検討・実行というこれまでの手続きにこだわらず、「〇〇したい!」という「言い出しっぺの子どもたち」が実行委員となり、児童会活動に主体的に取り組むようにする。

P4

研究会の動向

○ 研究主題

豊かな人間性を育てる特別活動 ―生きる力をはぐくむ活動の在り方を求めて―

研 究 部	学級活動 第1〈小〉	一人一人が進んで参加し、みんなと協力して楽しく活動できる展開の在り方を工夫していきたい。
	学級活動 第2〈小〉	人間関係を円滑にする力、自分の気持ちを表現する力、友達の気持ちを理解する力に焦点を当て、子どもたちが望ましい人間関係を構築する力を身に付けるための支援の在り方を追求したい。
	学級活動 〈中〉	生き方指導や級友との協力の場面において、自分自身で考え、決定し、責任を持つ効果的な指導の在り方を追求していきたい。
	児童会 活動	児童が自分らしさを発揮したり、互いのよさに気付いたりできること、そして、一人一人の発想や創意工夫を認め合う望ましい集団を育てることを目指した支援の在り方を明らかにしていきたい。
	生徒会 活動	願いの実現に向けて努力する生徒会役員に焦点を当て、活動の中で生じる困難を乗り越えられるような支援の在り方を追求していきたい。
	クラブ 活動	異学年とのかかわりの在り方や活動時間の工夫等を追求するとともに、地域社会との関連についても探していきたい。
	学校行事	子どもたちの希望や考えを生かした学校行事とするために、どのような活動過程を組むことが求められるのかを追求していきたい。
調査研修部		豊かな体験の場や活動の在り方、特別活動を主体とした他教科や領域との連携の在り方について追及し、どのように生きる力をはぐくむことができるかを明らかにしていきたい。

P5

個人研究紹介

自己を見つめ、友達関係を築く学級活動

―「もう一人の自分からの言葉」を考える活動を通して―

違いを認め共に成長しようとする学級活動

―「比較」「分析」「関連」を意識する活動を通して―

P6

研究大会の報告

第41回全国特別活動研究競技大会（東京大会8／1・2）に参加して

33

34

P1

◎ 人的ネットワークづくりを 名古屋市教育センター指導主事 今川 雄二

- ・ 総合的な学習の時間を効果的に活用していくためには、学校と家庭・地域社会とが十分に連携を図り、開かれた学校づくりを推進していかなければならない。
- ・ 各学校は、学校行事を中心とした活動の見直し、指導計画と活動に必要な時間数の確認をした上で、子どもたちが自主的に考え、積極的に活動できる課題や課題解決に必要な環境を整えていく必要がある。
- ・ 教師一人一人が子どもたちの活動に生かすことのできる人的ネットワークを構築し、各分野の専門家をゲストティーチャーとして迎えることで、子どもも教師も共に楽しく学習することができるのではないか。

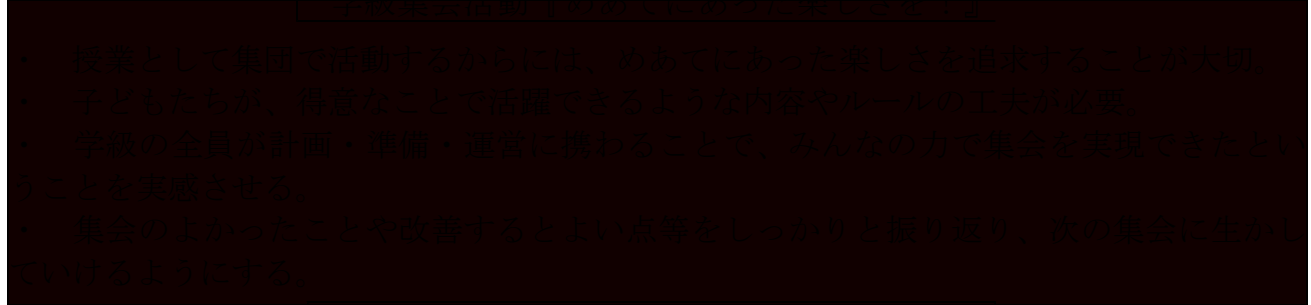
◎ 子どもの力を信じる 名古屋市特別活動研究会委員長 白石 悟

- ・ 本年度から特別活動研究会では、「生きる力」をはぐくむ指導の在り方を求め、実践研究に取り組んでいる。
- ・ 「生きる力」をはぐくむための指導に当たっては、失敗をおそれず、子どもの力を信じて、可能な限り子どもに任せることが重要である。「失敗は成功のもと」という発想のもと、広く、温かい気持ちで子どもの活動を見守ることが必要である。

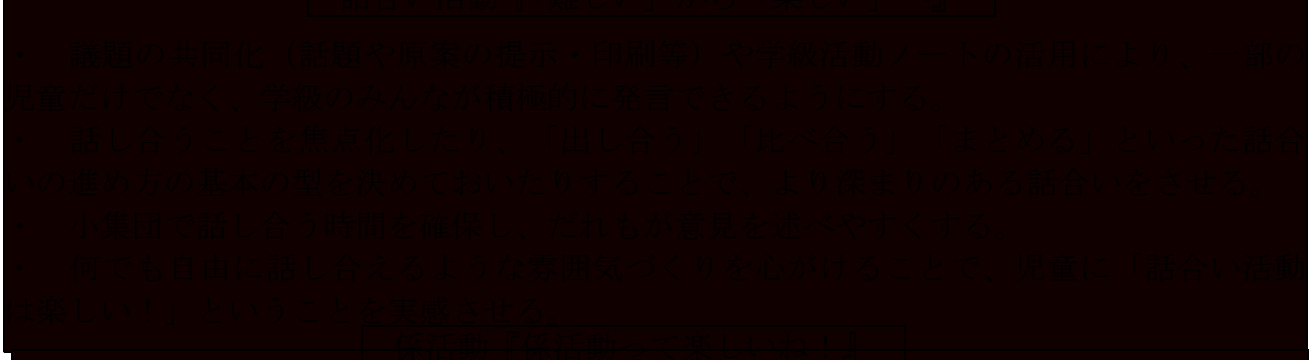
P2・P3

だれにでもできる学級活動

学級集会活動『ゆもてほま、も進しきた！』



話し合い活動『「誰しんもか」 「進しんもか」』



P4

研究会の動向

- 研究主題
豊かな人間性を育てる特別活動

P5

個人研究紹介

自分らしさを発揮できる児童を育てる学級活動
—「見つめる」「生かす」「振り返る」活動で生まれた自信を教科でも生かして—

自分らしい生き方を考えることができる静との育成
—「自分の生かし方」を探る調査活動を通して—

P6

特活情報

「海外研修を終えて ～座談会～」
ハンガリーとアメリカの教育事情

「こちら特活デスク」
入門期における話し合い活動の一工夫

P1

◎ 大切にしたい 現状改革の意識と実践力

名古屋市教育委員会指導室指導主事 青山 金一

- ・ 学びの原点は、子どもの願いや思いからの出発である。そして、指導の原点は、子どもの自己実現の支援であり、夢や希望を共に語ることである。
- ・ 教育課程審議会のまとめで公表された、授業内容の大幅な削減と総合的な学習の時間の創設等は、子どもの思いや願いに基づいた自発的な教育への転換を示すものである。
- ・ 各学校の創意工夫に委ねられる今回の転換を特活の拡充を図る機会ととらえ、先進

◎ 豊かな人間性

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 菱田 切

- ・ 教育改革の基本方針として、「豊かな人間性の育成」が、極めて重要な視点として取り上げられている。
- ・ 県教委が行った意識調査によると、「豊かな人間性について、学校で育成すべきもの」は、第1位「協調性や助け合う心」(69%)、第2位「相手の立場を理解し、尊重する態度」(56%)、第3位「責任感」(40%)である。そして、これらは特別活動が内容とする集団活動を通して育まれるものである。
- ・ 互いに役割を分担しながら、共通の目標に向かって協力して活動する集団活動の意義を見直し、子どもたちが、様々な感動体験を共有することができるよう、指導の在り方を工夫する必要がある。

P2・P3

特別活動と総合的な学習とのかかわり

- ・ 「総合的な学習の時間」の具体的な学習活動として、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題や児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて学習や活動を展開するように求められている。
- ・ 特別活動も総合的な学習に積極的にかかわっていく必要がある。

○ 各学校で行われてきた総合的な学習の内容

- ・ 教科の中単元レベルで内容を総合的に取り扱うもの
- ・ 関連する教科の内容をまとめながら選択教科型の学習として位置付けているもの
- ・ 教科の専門性を生かしながら、教科ごとに同一テーマでアプローチするもの
- ・ メインテーマに対していくつかのサブテーマに分けてアプローチするもの
- ・ 学習の興味・関心から自由に学習活動のテーマを設定し、学習を展開するもの

総合的な学習の時間実践例紹介

「子どもの思いを大切にしたい総合的な学習」

「はじめに子どもありきの総合的な学習」

「みんなでつくる総合的な学習」

愛知県東浦町立緒川小学校

神奈川県小田原市立大窪小学校

長野県伊那市立伊那小学校

P4

研究会の動向

○ 研究主題

豊かな人間性を育てる特別活動 ―生きる力を育てる活動を通して―

研 究 部	学級活動 第1	自らの生活を向上・充実させていくことができる子どもを育てることが大切である。みんなで決定した学級目標を達成しようとする活動を通して、生きる力を身に付けるための支援の在り方を追求していきたい。
	学級活動 第2	子どもが問題の所在、原因の追究・把握・解決の方法等を思考する授業、そこで培われた思考力、判断力がその後の生活に生かされるような事後指導の在り方を追求していきたい。
	中学校	将来を見据えた生き方指導、広い世界に目を向け、国際理解・環境問題に取り組む指導、ボランティア等に取り組む生徒会指導といった様々な場面で、生徒の生きる力を育てる支援の在り方を追求していきたい。
	児童会 活動	児童が課題意識をもち、解決を図る活動に取り組むための教師のかかわり方。つくり上げる過程を重視した活動にするための職員への働き掛け。課題意識を高め合う活動時間の確保。以上の3点に重点を置き、研究を進めることで、生きる力を育てる児童会活動の在り方を探していきたい。
	クラブ 活動	クラブ活動の設置や運営の在り方を広く調査し、集約・整理し、様々な選択肢を用意することを主眼として研究を進めていきたい。
	学校行事	学校五日制に向け、授業時間確保のため、学校行事の内容や指導方法の見直しが進められている。運動会や体育大会等について、各学校での取り組み方を調査し、実施内容や練習時間の工夫等を紹介していきたい。
	特活入門	学級活動を中心とした特別活動の基礎・基本について、これから特別活動を勉強していこうとする部員を中心に学習を進めている。
調査研修部	先行研究例を分析し、本市の特別活動の実施状況をもとに特別活動にかかわりの深い単元や題材を検討して、総合的な学習のカリキュラム案を作成していきたい。	

P5

個人研究紹介

互いの思いを大切に活動する子の育成 ―地域を題材にした総合的な学習を通して―

生き方を探求し実践できる生徒の育成 ―ボランティア体験活動を通して―

P6

特活入門部会へようこそ

P1

◎ これからの特別活動

名古屋市教育センター指導主事 今川 雄二

- ・ 小学校から希望や目標をもち、自分の将来について考える機会を設ける工夫することが今後さらに重視されてくる。
- ・ 希望や目標は、児童が豊かな感動体験から自ら学び育てるものであり、成功や失敗を繰り返し体験することで学び取っていくものである。
- ・ 「将来どのような生き方がしたいか」を自らの課題とし、希望や目標をもって生き生きと活動する子どもを育てていけることを期待する。

◎ なすことによって学ぶ特別活動

名古屋市特別活動研究会委員長 鈴木 勝彦

- ・ 特別活動では、好ましい人間関係の醸成、実践的な態度の育成、ガイダンス機能の充実、ボランティア精神を養う活動の充実などが実践課題としてあげられ、その解決に向けた活動の工夫や充実が求められている。
- ・ 本研究会では、特別活動で培う基礎・基本とは何か、それが総合的な学習をどう支え、かかわり合って互いの学びを高め合っていけるのかを明らかにするため、実践研究を進めてきた。
- ・ この「特活だより」や「研究収録」が、真の特別活動のよさ、すばらしさを伝えるものになることを期待している。

P2・P3

話合いの基礎・基本

話合いの計画づくり

- ・ 学級活動の時間を自発的・自主的に運営するために、事前に話合いの計画を立てることが大切。
- ・ 話合いを計画的に進めていくための係（計画委員）は輪番で行う。誰もが一度は話合い活動のリーダーを経験することで、フォロワーになったときの意識が変わる。

話合いの進め方

- ・ 一人一人が自分の考えを勝手に発表するだけでなく、相手の意見に自分の考えをかかわらせて発言するのが話合いである。
- ・ 話合いの進め方については、「話題を示す」、「補足を求める」、「議題にもどす」、「活発にする」といったそれぞれの場面で、司会者がどのような言葉がけをするとよいかをポイントとした事前の支援が大切。

話合いを深める発言の仕方

- ・ 「理由を明らかにした発言」、「友達の考えに同意する発言」、「いろいろな解決方法を考えようとする発言」、「友達を認め励ます発言」、「困っている仲間や司会を助けようとする発言」など、発言の仕方を事前に指導することで、話合いを深めることができる。

教師の適切な指導

- ・ 自発的・自主的という名の下に、放任の話合い活動ではいけない。
- ・ 「お金を集める問題」、「安全にかかわる問題」、「学校施設を学級で使う問題」、「時間割を変えて行う問題」、「郊外へ出て活動する問題」などについては、教師の適切な助言が必要である。

P4

研究会の動向

名古屋市教育後援会・特別活動研究協議会 「豊かな人間性を育てる特別活動」

第1部会（小学校学級活動） 「学級活動で育てたい児童の姿」

話合いまでの場面では、「問題に気付いて解決の方法を自分で考えることができる」児童、話合いの場面では、「よりよい解決方法をいろいろに考えて問題を解決できる」児童が育つことが期待できる。

第3部会（中学校） 「ガイダンス機能の充実」

共に生きようとする態度を育てるために、ガイダンスに高齢者や外国人と接する体験を取り入れることで、共生する生き方を考える力を育てることができた。

第4部会（小学校） 「特別活動と総合的な学習との関連」

自分の願いを実現するために話し合い、協力し合って実践していく係活動で培った力は、総合的な学習の中で生かされ、総合的な学習の中で身に付けた問題解決の力は、係活動でも生かされた。

調査研修部 「今後のクラブ・委員会活動」

クラブ活動では、児童が進んで取り組んだり、工夫したりできる活動が求められている。委員会活動では、ボランティア活動を重視していくことが大切である。

P5

個人研究紹介

地域に関心と親しみをもち、大切にしようとする児童の育成
—自分たちの願いを生かした学習発表会を通して—

役立ちを考え、認め合う生徒の育成 —音楽会に向けた活動を通して—

P6

特活情報 学級活動実践講座

ヨーロッパの教育事情

35

責任者：鈴木 勝彦

P1

◎ 実践に当たって～文部省新教育課程説明会の内容から～

名古屋市教育委員会指導室指導主事
関口 大介

- ・ 「特別活動」と「総合的な学習の時間」は共に学校全体で取り組むものである。境目をはっきりとさせるため、両者の全体構想・指導計画などの明確化を図らなければならない。
- ・ ガイダンス機能の充実では、教師集団が力を合わせて、学校としてガイダンスするという点から推進することが大切である。
- ・ 社会的ルールやモラルの習得、社会的スキルの習得とからめて、人間としての生き方の指導を工夫・充実していく必要がある。

◎ ひとりひとりに活動の場を

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 小島 文三

- ・ 特別活動の特質は集団としての実践活動にあり、実践活動にいたる「過程」がとても大切である。
- ・ 「集団を構成しているひとりひとり」にぜひ目を向け、ひとりひとりが活動する場を創り、意欲をもって取り組む活動にしたい。
- ・ 特別活動と総合的な学習の時間を関連付けた実践に取り組む必要がある。

P2、P3

特集 特別活動における新教育課程の実践 中学校の実践例 小学校の実践例

P4 研究会の動向 「豊かな人間性を育てる特別活動」

－ 新学習指導要領の導入にともなって－

研 究	小学 学 活	よりよい学級生活実現のために、どのような活動・支援・指導を行っていけばよいのか、「集会づくり」の活動にスポットを当てて、実践研究を行う。
	小児 童 会	児童会活動と総合的な学習がどのようにかかわっていけば、互いの内容を高め合ったり補完しあったりできるのかを全校児童集会活動の実践を通して探る。
	中学 校	ガイダンス機能の充実を図る方法について、特別活動と総合的な学習の時間との連携の在り方について研究を進める。
	第4 部 会	学校行事と総合的な学習の時間の望ましい関連の在り方を探る。両者の特質を生かして主体的な児童の活動を生み出す指導方法を明らかにする。

部 会	特活 入門 部	学級活動を中心に特別活動の基礎・基本について研鑽を深める。指導上の悩みの解決に向けて話し合ったり、同じ題材で授業研究したことを報告し合ったりしながら、共に学んでいく。
	広報 部	本市研究会の動向や今日的課題を踏まえ、新しい情報の広報に努めていく。そのため、「市特活だより」を9月と3月の2回発行する。
	調査 研修	特別活動で育てたい力を明らかにする。総合的な学習の時間や各教科・道徳との関連をどのように図っていくかという点も明らかにする。また、クラブ活動、委員会活動、総合的な学習の時間の実施状況の調査を行う。

P5

実践紹介

P6

特活情報 「創立35周年記念 小学校学校行事研究全国大会 愛知大会について

「第44回 全国特別活動研究協議大会」 埼玉大会について

責任者：鈴木 勝彦

P1

◎ 「特別活動ってすばらしい！！」 名古屋市特別活動研究会委員長 鈴木 勝彦

- ・ 開かれた学校づくりの推進に伴い、説明責任の大切さが指摘されている。特別活動においても、自主的・実践的な態度のはぐくみがどうして重要なのかを今一度切実に訴え、説明していく必要がある。
- ・ 学校だよりやHPなどの方法も考えられるが、特別活動のすばらしさを積極的に説明していくことで、特別活動に対する周りの見方は必ず変わっていくと思われる。
- ・ 17才犯罪、学級崩壊、いじめ、不登校などが大きな社会問題となっている現在、子どもたちの輝きを大切にした「豊かな人間性をはぐくむ特別活動」のすばらしさを伝え、広めていきたい。

P2,3

特集 「学級内の組織づくり」の基礎・基本 計画委員会、係の活動

P4 名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告

豊かな人間性を育てる特別活動

第1部会 学級活動「学級オリンピックをしよう」

第3部会 中学校「生き方を探求し、実践できる生徒の育成」

第4部会 「中津川野外教育の感動を伝えよう」

「自分でつくる修学旅行」

P5 個人研究紹介

P6 特別活動情報 学級活動実践講座

会員情報

責任者：渡辺 一雄

P1

◎ 平成14年度を前にして

名古屋市教育委員会指導室指導主事
関口 大介

- ・ 特別活動の特質と教課審答申で「豊かな人間性や社会性」とあえて「社会性」を取り出し、その育成が提言されたことから、新学習指導要領の実施において特別活動の担う部分の大きさが分かる。
- ・ 平成14年度完全学校週5日制の下で、新学習指導要領が全面実施されるにあたり、学校教育の基盤を形成する特別活動の充実を図ることが大切である。
- ・ 学校全体の教育計画との関わりで特別活動指導計画を立案することが必要である。

◎ ひとりひとりに愛と信頼を

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 吉田 光武

- ・ 学校週5日制・新教育課程の実施という節目を迎えている。学級担任・授業者として、親と子どもとの信頼関係を、学級経営の基盤としてどのように築いているかを問われることが多くなるであろう。
- ・ 信頼とは相互のものであり、子どもの実態を把握すると共に、観の目として、よさをより強く意識し、より一杯の教師の愛情が伝わるよう工夫する必要がある。
- ・ 体や言葉のなかに愛情を込めた日ごろの指導があれば、子どもも親も教師として認めてくれるはずである。

P2、P3

特集 委員会活動、クラブ活動の基礎・基本

P4 研究会の動向 「豊かな人間性を育てる特別活動」

－ 特別活動の役割を問い直す －

研 部	小学 学 部	「よりよい学級集団づくり」のために、学級活動ができることは何かを追究していく。
	小 児 会	児童会集会活動や代表委員会活動、委員会活動を基に、部員同士で検討し合い、よりよい児童会活動の進め方を考える。
	中 学 校	学級活動・生徒会活動を通して、どのような活動に取り組むことができ、どのような力を生徒に身に付けさせることができるかを考える。
	ク ラ ブ、 行 事	総合的な学習の時間に生かされる特別活動で培われた力とは何なのか、

会	総合	実践を通して考察する。
	入門部	学級活動を中心に、児童会活動、クラブ活動、学校行事について資料を基に話し合ったり、日ごろの指導での悩みの解決策を互いに見いだしていく。
	調査 研修	委員会活動やクラブ活動について具体的活動事例などを提言していきたい。 また、本研究会のHPの解説準備を進めていきたい。
	広報	本研究会の動向や今日的課題を踏まえ、新しい情報の広報に努める。年2回の発行を目指す。

P5

実践紹介

P6

特活情報 「第36回 小学校学校行事研究全国大会 宮城大会について

責任者：渡辺 一雄

P1

◎ 「特別活動の役割って…」

名古屋市特別活動研究会委員長 渡辺 一雄

- ・ 次のような指摘がある。「集団の一員として行動する場合、集団的な無責任が個人の責任感を圧倒する場合が多い」「日本人は自己決定を回避する傾向にある」また、中教審では、「個人が、学校や職場などの所属する組織を離れ、コミュニティーをよりよくする活動に主体的に参加する」ことを求めている。
- ・ 特別活動＝集団活動と思い、子どもの管理をねらいとして安易にグループ活動を進めたり、集団活動を最優先したりしてはいないかと振り返る必要がある。
- ・ 子どもたちが獲得した力が、人とのかかわりの中で発揮できるものとなるよう、今一度、特別活動のねらいを確かにもち、より教育的価値の高い活動を探っていかなければならない。

P2,3 特集 生徒会活動の基礎・基本

P4 名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告

豊かな人間性を育てる特別活動

第1部会 「望ましい学級集団をいかにしてつくるか」

第2部会 「自主性・社会性が育つ児童会活動」

第3部会 「中学校の特別活動」

P5 個人研究紹介

P6 会員からの研修情報 特別活動情報

責任者：清水 克博

P1 表紙 あなた「特別活動」してますか？

P2 特集1 たてわり活動をしてみませんか。

P3 特集2 グループ・エンカウンターをとり入れた学級活動

P4 ◎ 実践にあたって 名古屋市教育委員会指導室指導主事 岩田 一郎

- ・ 特別活動を充実させるために、学校全体での指導体制を確立するとともに、どのように子どもを育てたいかという学校デザインが必要。
- ・ そのために、毎週の学級活動で、子どもたちに何を身につけさせたいのかを学校全体で明確にし、教師と子ども、そして子どもたち相互の豊かな人間関係を築く場や機会を学校全体の計画の下で計画的に確保する必要がある。
- ・ 情報化社会が一層進む中で、人とのかかわりの中で自分を見つめ、それを自分の生き方に生かす、より社会性を身につけさせることが重要である。

◎ 本質は変わらない 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 峯田 幸夫

- ・ 特別活動の目標は、幾度かの教育課程の改訂を経ても変わっていない。学校週5日制・新教育課程が実施されても、特別活動の本質は変わらないということである。
- ・ しかし、知識の習得に重点を置き、「心身の調和のとれた発達と個性の伸長」は霞んでしまっている。
- ・ 特別活動の重要性を認識し、特別活動と、総合的な学習との相互補完的、相互還流的な関係を探求することが必要。

P5 研究会の動向 「豊かな人間性を育てる特別活動」

－ 特別活動は遊びじゃない －

小学校	実践を進める上での悩みを出し合ったり、子どもにとって楽しく成長が促せるようなアイデアやノウハウを紹介する。
中学校	「生徒が楽しく充実した学校生活を送ることができるように」という教師の願いに基づいた活動事例、活動過程のアイデアや指導方法を追究する。
基礎研修	話合いの順序や、掲示するとき便利な物など、すぐに活用できそうな情報を提供したり、実践上の悩みも話し合っていく。
調査広報	「話合いの進め方」「係活動の進め方」などについて資料提供できるようにする。HPの作成と更新にも携わる。

P6

市特活情報 特活サロンなど

実践研情報 学級活動実技研修会について

責任者：清水 克博

P1 表紙 あなた「特別活動」してますか？

P2 ◎ 社会性を育む特別活動

名古屋市教育センター指導主事 中島正明

- ・ 豊かな社会性は、①集団としての自覚 ②個性の伸長と豊かな人間性の育成 ③好ましい人間関係 ④自主的、実践的な態度など、望ましい集団活動を通して身に付けていくものである。
- ・ この集団活動は、次の活動を生み出すような自発的・自治的な活動でありたい。発達段階に応じて、自らの成長を実感していけるようにしてほしい。
- ・ こうした体験が、集団での基本的ルール、自らの生かし方などを学び、どんな時代にあっても確かな社会性を育んでいくものと思われる。

◎ 特別活動の原点に戻る

名古屋市特別活動研究会委員長 清水克博

- ・ 特別活動に取り組む私たちは、時として言葉を使いすぎているのかもしれない。目の前の子どもたちが生き生きと活動する姿を保護者や同僚に見せる方がはるかに効果的であることを授業から教えられた。
- ・ 特別活動の原点は実践である。多くの実践を周囲の先生や保護者に見せていくことで、特別活動の大切さを大勢の人々に知らせていくことが必要である。

P3 特集1 学校開放と特別活動

P4 特集2 特別活動と総合的な学習の時間（中学校偏）

P5 個人研究紹介

P6 名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告

豊かな人間性を育てる特別活動

小学校部会 「係活動の在り方について」

中学校部会 「中学校の特別活動」

調査研修部会 「学級活動に生かすエンカウンター」

責任者：清水 克博

P1 表紙 特別活動 楽しんでいますか？

P2

- 今こそ、望ましい集団活動の確かな実践を

名古屋市教育委員会指導室指導主事 岩田 一郎

- 不登校の問題に関する調査協力者会議は、その報告で「特に、学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特別活動の充実、学校生活の基盤となる児童生徒間や教師との人間関係を形成し、児童生徒の学校における居場所づくりや貴族意識を高める観点から従業である」と述べている。
- 特別活動の役割・意義について再確認するとともに「望ましい集団活動をどう考えるか」「集団の一員としての自覚を深めるための指導をどう考えるか」などについて明らかにすることが、各学校の特別活動の充実には欠かせない。
- 児童生徒が生き生きと活動できる場の設定や機会の確保を学校全体として創意工夫していくことが求められている。

◎ 目の前の子どもから 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 峯田 幸夫

- 平成10年の教育課程審議会まとめの中で、「社会性の不足、規範意識の低下、自立が遅くなっていること」が指摘されているが、5年たっても状況は一層悪くなっているといっても過言ではない。
- このような背景の中、特別活動の指導を通して、「豊かな人間性」「好ましい社会性」を子どもたちに培うことの重要性が、ますます増してきている。

P3

今年度の取り組み

社会性を培う特別活動

・テーマ設定の理由

本研究会の目指す特別活動のねらいは、他教科等には見られない特質を打ち出すことが必要であると考え、特別活動特有の指導原理である「集団活動を通して」に着目することにした。

子どもたちの社会性を育むことの大切さは、今日的な教育課題であることは周知のとおりであり、集団活動を通して「なすことによって学ぶ」特別活動が、社会性を育てる場として最も有効であると考えます。

P4

特集 係り活動で社会性を培う

楽しい係活動・・・子どもたちが主体的・創造的に活動しながら、よりよい学級生活を築いていく。

P5

活動例

- 1 「小学校1年生初めての係りの決め方のアイデア」

2 「業前の時間を活用するアイデア」

P6

特別活動情報

- ・学級活動実践研修会
- ・日本特別活動学会
- ・全国特別活動研究競技大会
- ・小学校学校行事研究全国大会 奈良大会

責任者：清水 克博

P1 表紙 特別活動楽しんでますか？

P2

- これからの学校行事

名古屋市教育センター指導主事 中島 正明

- 学校行事の見直しが必要。
- その視点として「教育目標達成のために必要な行事か」「子どもの生活を豊かにし、充実させるために必要な行事か」「子どもに経験させたことが将来に生かせる行事か」というものがあげられる。
- 何よりも大切なことは、行事の計画—実行—反省といった流れの中に、学校の方針を計画に打ち出すとともに、子どもや保護者の意見や要望を取り入れ、それらをアピールすること。
- 開かれた学校、特色ある学校づくりが求められる中で、こうした学校行事の見直しは、必要不可欠であり、マンネリ化を防ぐとともに、子どもの変容が生み出されることとなり、保護者や地域から学校教育への理解や信頼が得られる。
- 集団の高まりに対する評価がおざなりにはなっていないか。

- 長期的な展望に立った特別活動

名古屋市特別活動研究会委員長 清水 克博

- 年度末反省では、学校行事を中心とした諸活動の経営の在り方に話が終始しがち。6・3年間を通して育てたい子ども像にどこまで近づいたかなどが論議され、次年度以降の計画に役立てることが、なかなかできていない。
- 学級活動の35時間の指導計画だけでなく、6・3年間の長期的展望に立った指導計画をもって、継続性のある特別活動の展開をしていかなければならない。

P3

- 今年度の取り組み 社会性を培う特別活動

実践開発部

特別活動で培う社会性を「交流を通して他者理解を深め、集団に寄与しつつ自己実現を図る能力」と定義することを提案。

「他社理解を深めるような交流になっていたか」「集団に寄与した自己実現を図ることができていたか」という視点で振り返り、指導計画や指導法を見直してみる必要がある。

実践啓発部

「社会性を培う」というテーマを踏まえ、学習会を行い実践の工夫について研究を進めている。「学級活動をビデオで学ぶ」を行い、実際の授業の様子をビデオで見た後、参加者で意見交換をしながら、社会性をどのように培うかを話し合った。

実践研究部

愛知淑徳大学教授を指導助言に招き、学級での活動に取り組むことが難しい子ども

の事例を取り上げて検討した。事例検討を通して、頻繁に問題を起こす子どもの背景を理解するだけでなく、こうした子供を抱える学級の子どもたちをどう指導すればよいかをご示唆いただくことができた。

- **特集 他者理解を深める交流**

- **個人研究紹介**

- ・みんなが輝くといいね ～よさを発揮し認め合う活動をして～
- ・みんなで頑張ることはすばらしい！ ～合唱祭の取り組みを通して～

- **名古屋市教育会後援・特別活動研究協議会の報告**

『豊かな人間を育てる特別活動』 2月4日（水）

「活動の質を高めよう！」をサブテーマとして、小学校から2実践、中学校から1実践が提案された。

- ・小学校部会
- ・中学校部会
- ・指導・助言

特別活動は児童・生徒の所属感を高めるのにとっても有効である。これからも、子どもたち一人一人に自己目標をもたせることができるような年間計画を立ててもらいたい。

今の子どもたちの現状では、授業や学級の中で、話合いが成立しにくいのではないか。話し合い活動が充実できるような指導をもっと行ってほしい。

責任者：加藤 友司

P1 表紙 特別活動 楽しんでますか？

P2

- 特別活動を見直すきっかけに 名古屋市教育委員会指導室指導主事 辻 正人

- 文部科学省主催の各教科担当指導主事連絡協議会で、特別活動の課題の一つとして、「評価の在り方」があげられた。
- 個人の側面だけを評価の対象とするのではなく、個人と集団とのかかわり合いも評価の対象となるのであり、多面的にも評価することが大切になる。
- 集団の高まりに対する評価がおざなりにはなっていないか。

- 子どもの社会性を培う 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 熊田 高廣

- 子ども同士が傷つけあう悲しい事件報道から、社会性が十分育っていない、他人とうまくかかわりあいをもてない人間関係の希薄な、対人関係の未熟な人物像が見えてくる。
- 教師と一緒に望ましい集団活動を築き上げる中で、子どもたちの社会性が培われていく。

P3

今年度の取り組み

- ・社会性を培う特別活動を探る

昨年度、「社会性を培う」を研究のテーマとし、子どもたちが、集団活動の中で交流（話し合いや共同作業など、他者との双方向、多方向的なコミュニケーション）を通して、他者理解を深め、集団に寄与しつつ自己実現を図る能力を身に付けるよう指導することが「社会性を培う」ことになると考えた。

特別活動の話し合い活動では、子どもたちは、教師が行う支援や助言に含まれる価値基準に照らして物事を判断し、課題の解決に向け集団討議し、その解決策を集団決定していく。価値基準は教師でなくとも、学級集団共通の目標になることもある。（三者関係）

社会性が育ったとは、この三者関係で、子どもたちが視点をさまざまに変えてものごとを客観視できたり、他者の立場からも考えることができたり、集団の一員であるという自覚をもつことができたりするなどして、集団の中に自然に価値基準が共有化され、第三者的な存在が内面化されるようになった時と考える。

P4

- ・社会性が育った子どもの姿とは・・・

「友達とかかわりあい、問題を自分たちで解決していく子どもたち」

子どもたちの社会性を育てるために、小中学校でできることは・・・

みんなの考えを出し合って

みんなで問題を解決する

今、大切なことは「みんなで考えること」
すなわち『話し合い』

P5

・活動例

小学校 話し合いに取り組んでみましょう

中学校 グループの話し合いに取り組んでみましょう

P6

特別活動情報

- 学級活動実技研修会
- 全国特別活動研究協議大会
- 日本特別活動学会
- 全校小学校学校行事研究全国大会 埼玉大会

責任者：加藤 友司

P1 表紙 特別活動 楽しんでいきますか？

P2

- 学級集団を変える学級活動

名古屋市教育センター指導主事 中島 正明

- 子どもたちがより楽しく自主的な学級活動に取り組むためには、子どもたちが学級の中で切実な問題点を見つけ出し、その解決に向けて納得できるまで話し合い実践することが必要。
- 「集団決定による目標の共有化を図る場面」「目当ての実現を目指した役割分担と実践する場面」「目標がどのくらい達成できたかを振り返る場面と学級の成長を振り返る場面」をこれまで以上に工夫する。

- 35話完結ドラマ

名古屋市学校教育研究会特別活動研究会委員長 加藤 友司

- 学級活動は単発で行われるものでなく、年間35週の単位時間の中で、学級担任の意図するところによって展開される35話からなるドラマである。
- 文部科学省は「ニート」対策の意味も含め、キャリア教育の必要性を指摘している。その内容を見ると、かなりの部分で学級活動が担うことが考えられる。
- 今後ますます、学級活動の重要性が高まるであろう。

P3

今年度の取り組み 特集 社会性の視点から学級活動を見る

- ・話し合い活動の授業を社会性の視点から分析
- ・活動過程を7つのステージに分割
 - ① 議題提案場面
 - ② 提案理由の説明場面
 - ③ 反対意見の集約場面
 - ④ 討議の場面
 - ⑤ 採決の場面
 - ⑥ 決定の場面
 - ⑦ 振り返りの場面
- ・交流のレベルを高めるための「5つの仕込み」の設定
 - 仕込みⅠ 原案の設定：原案の種目が苦手な子、嫌いな子の反発が予想される提案をあえて設定する。
 - 交流の活発化を図る。
 - 仕込みⅡ 提案理由の説明場面：教師が「ねらい」を補説する。
 - 「ねらい」の意識付けをする。
 - 仕込みⅢ 苦手な子、嫌いな子の思いを出させる場面の設定：討議の場面では出しにくいと思われる考えを掘り起こす。
 - 児童の相互の交流を図る。
 - 仕込みⅣ 討議の場面：ねらいを必要に応じて助言する。
 - 集団を意識した交流を図る。
 - 仕込みⅤ 振り返りの場面：話し合いの中で友達の良かったことを出し合い、称

揚し合わせる。

→ 集団を意識した上での他者理解の進化を図る。

- ・考察 ④⑤のステージでの社会性は比較的低く、⑥⑦のステージになると社会が共通して高まってきた。討議や採決のステージでは、自己の思いが優先し、決定後には、学級集団を意識した思いに変わったためと推察される。このことから、仕込みⅣで、どのように助言や支援を行うかの工夫が必要であることが分かる。

P5

個人研究紹介

- 一人一人がかげがえのない仲間！～みんなで活動する喜びを味わう学級活動を通して～
- みんなで役に立つことができたよ！
～係り活動の振り返りで、ともに成長しようとする自覚を高めて～

P6

名古屋市教育後援会・特別活動研究協議会の報告

『豊かな人間性を育てる特別活動』 — 魅力ある集団活動を目指して—

- 小学校部会
- 中学校部会
- 指導助言

自主的・主体的な態度を育てるという意味で、これからの社会では特別活動の役割は極めて重要である。常に問題意識を持ち、多面的な見方をすると共に、評価の在り方を明確にしていく必要がある。

「望ましい集団活動を通して個性の伸長を図る」という特別活動の原点を忘れてはいけない。子どものエネルギーを高め、方向性をもたせ、さらにそのエネルギーをぶつけ合わせてほしい。

P 1

◎ 伝え合う力を育てよう

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 藤本 靖典

- ・ 平成16年10月、文部科学省は、児童生徒の問題行動対策重点プログラムを発表した。その「命を大切にする教育の充実」の中で、①かけがえのない命を大切にする心を育み、②伝え合う力を高め、望ましい人間関係をつくる力を身につけ、③生きることの素晴らしさを体験活動を通じて実感できるようにすることが必要と述べている。
- ・ ②の「伝え合う力」とは「自分の気持ちや考えを適切に相手に伝え、生活上の問題を言葉で解決する力」のこと。
- ・ 児童生徒を取り巻く問題の多くは、人とかかわりの中で起こっている。伝え合う力を育てるために、思い切り自己主張をする体験や相手の意見に耳を傾ける体験を積み重ねることが必要。だからこそ、特別活動の担う役割は大きい。

◎ 子どもの笑顔が見たいから

名古屋市学校教育研究会 特別活動研究部会長 梶田 武

- ・ 子どもたちは、だれもがかけがえのない存在であり、だれ一人同じ考え、同じ行動をするものではない。だからこそ、特別活動が求める「望ましい集団活動」を通して個の伸長が図られ、実践する生きる力が育まれるものだ。
- ・ 名古屋市特別活動研究会では、「社会性を培う特別活動」を掲げて心豊かな人間性の育成に努めている。
- ・ 教師が研鑽に励む意義は、子どもたちの真の笑顔が見たいからであり、共に歩む喜びでもある。

P 2

平成17年度の名古屋市特別活動研究会

豊かな人間性を育てる特別活動

—子どもが変わる！元気に・優しく・前向きに！— がテーマ

- 友達と力を合わせて取り組むことで、活動意欲が高まり『元気』になる。
- 友達の気持ちや立場を考えて活動することで、思いやりの心が育ち『優しく』なる。
- よりよい学級を目指して話し合うことで、課題意識が高まり『前向きに』なる。

人は、人とかかわり合いながら生きている。その中で様々なことを学び、身に付けた力を発揮して自己実現していく。その基礎となる社会性を培う大切な場面、それが特別活動であり、

その根底となるのが魅力ある集団活動である。

成果と課題を明らかにし、一人でも多くの子どもが「元気に・優しく・前向きに」変わることを期待できるような実のある実践研究を進めていきたい。

P 3

特集 座談会 「特活における“社会性”とは」（7月23日 本城中学校）

- ・ 特別活動実践研究会の開発部と実践者が、実践を進める上でのポイントについて話し合った。
- ・ 「特活における社会性をどうとらえていくといいのか？」
- ・ 「社会性を高める実践では、何が大切か？」

P 4

特別活動情報

- ・ 学習会「ビデオで学ぶ～これぞ学級活動～」（6月24日 於：千早小学校）
- ・ 第40回小学校学校行事研究全国大会 （8月4・5日 於：大阪市）
- ・ 学級活動実技研修会 （8月5日 於：名古屋市女性会館）

P 1

◎ 特別活動における教師の役割

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 中島 正明

- ・ これまで、教師はすべてがうまくいくように仕組み、だれもが失敗や挫折をせずに、みんなが成就感を味わうことができるよう全力を尽くしてきた。
- ・ これからの特別活動は、これまでの教師の役割に加え、より一層のきめ細やかな指導力、幅広い対応力が強く求められている。

◎ 積み重ね

名古屋市特別活動研究会委員長 加藤 友司

- ・ 今年度、様々な活動を行い、特別活動の大切さやすばらしさを広める活動を積み重ねた結果、特別活動のすそ野が広がってきたことを実感している。
- ・ 「特活だより」は50号になった。一号一号の積み重ねが本市の特別活動の歴史である。さらに号数を積み重ねていくことを確信している。

P 2

特別寄稿 「今、特別活動の出番」

名古屋市教育センター所長 坂野重法

- ・ 現在、人間関係が一層希薄になり、社会と積極的な関わりを避ける若者が増えている。こうした諸問題を解決するために、今、特別活動の出番なのである。パーソナルな時代だからこそ集団活動が求められる。
- ・ 他の教育活動で育成したコミュニケーション能力を実践的な能力として高め、子どもたちの社会的な自立に役立てることが、特別活動の役割であるとする。
- ・ どの学級でも手軽に特別活動に取り組むことができるようなカリキュラム編成とその普及活動が研究会の使命だと考える。コミュニケーション能力の高い「特活人」の育成が研究会に期待されている。

P 3

名古屋市特別活動研究協議会（1月27日）報告

小 学 校 部 会

<実践発表>

① 「仲間意識を高める学級活動をしよう」

- ・ 理想の学級の姿を「未来実現絵日記」で表現することによって、「仲良くしよう」「協力しよう」という目標を明確にすることができた。さらに、目標を達成するための集会を計画、実行することで、仲間意識を高めることができた。

② 「係活動を楽しみ、活動意欲を高める学級活動をしよう」

・ 多くの活動を体験したり、有用感を味わったりすることによって、係活動の楽しさを感じさせることができた。さらに、互いの頑張りを認め合ったり、アドバイスをし合ったりすることで次への活動意欲を高めることができた。

中 学 校 部 会

<実践発表>

① 「自分自身を振り返り、友達のよいところを見つけよう」

・ 行事に向けて取り組む際、互いを批判するのではなく、自分自身を振り返り、協力しようとする気持ちを育てる実践を「応援合戦」と「音楽会」の取り組みを通して行った。

② 「ボランティア活動に積極的に参加しよう」

・ 生徒会執行部が中心となって考えた企画に、ただ参加するのではなく、自分で考えて判断し、積極的に参加する生徒を育てる実践を行った。

<指導・助言>

・ 特別活動は、心を育てる大切な領域である。しかし、評価があいまいにされていたのも事実である。そこでこれまでの成果を踏まえ、指導と評価の一体化をさらに進め、より具体的な成果をあげてほしい。

・ 特別活動の目標に掲げる「望ましい集団活動」とは、子どもにとって「魅力のある集団活動」である。活動を通して、子どもたちに自主的・実践的な態度が育つように、実践を進めてほしい。

P 4・5・6

社会性を客観的にとらえる

- ・ 「社会性尺度の開発」「社会性尺度の利用」
- ・ 6年生の社会性を調査する質問項目の紹介

P 7

個人研究の紹介

- ・ 「モヤッと」するのもいいよ～一人一人の考えを認め合う話し合い活動の工夫～
- ・ 協力するのって大切なんだね！～集団活動が苦手な児童への指導の工夫～

P 8

特別活動情報

- ・ 「ビデオを見て学級活動を学ぼう」（9月30日 於：千早小学校）
- ・ 秋の研修会「模擬学級会」（10月26日 於：名古屋市教育館）
- ・ 教育研究員研究発表会（2月17日 於：教育センター）

- ① 目標の達成に向けて活動する児童の育成
- ② 実践活動への意欲を高める学級活動

P 1

◎ 特別活動が出す答えに期待

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 川北 貴之

- ・ 現在、人間関係形成能力の不足、規範意識の低下、ニートの増加など、教育や社会は新たな課題を抱えている。
- ・ 話し合い活動は、コミュニケーションに必要な聞く力や話す力や、集団におけるルール遵守の意識などを、体験を通して育成・醸成できる活動で、これに勝るものはないと感じる。
- ・ 係活動などを通して感じる責任感や自己肯定感、小学校段階からの系統的な進路指導・キャリア教育によって形成される勤労観や職業観は、社会的自立の基盤となるものである。
- ・ 切実な課題に、特別活動がどんな答えを出すのか。期待が膨らむ。

◎ 実践から学ぶ

名古屋市学校教育研究会 特別活動研究部会長 梅本 幸夫

- ・ 特別活動は、好ましい人間関係の醸成、モラルや社会生活上のルールの習得、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度の育成を重視している。
- ・ これらは、学級づくりを行うためには不可欠な事柄のため、特別活動に興味をもたれる。しかし、まだまだ特別活動が十分に行われていないという現実もある。
- ・ 各学校の実態に応じた教育課程を作成することや取り組むための資料の準備が必要だが、会員の実践を知ってもらうことも大切。特別活動は、「為して学ぶ」ものである。難しい理屈よりもまず実践すること、実践を通して、成長することが大切である。

P 2・3

平成18年度の名古屋市特別活動研究会だ！！

豊かな人間性を育てる特別活動— 集団活動のよさを引き出そう！ — がテーマ

- ・ 特別活動の原則は変わらない！！
特別活動では、「望ましい集団活動を通して、為すことによって学ぶ」が普遍原則。
特別活動において子どもの社会性を育て、子どもの豊かな心を育むことはきわめて重要。
- ・ 実践を通して明らかに！！
18年度は、「元気に」「優しく」「前向き」になる実践をさらに進める中で
「いつ」「どこで」「何を」「どのように」していくと、集団活動のよさを引き出すことができるかという指導のポイントを明らかにしていく。

集団活動のよさを引き出す工夫として・・・

＜実践例＞ 「未来実現絵日記」を活用した学級活動（小学4年生）

理想の学級の姿を「未来実現絵日記」で表現することによって、「仲良くしよう」「協力しよう」という目標を明確にすることができた。さらに、目標を達成するための「仲良し協力運動会」を計画、実行することで、仲間意識を高めることができた。

P 4

特別活動情報

- ・ 「ビデオを見て学級活動を学ぼう」 (6月19日 於：千早小学校)
 - ・ 小学校学校行事研究全国大会 神奈川大会 (8月3・4日 於：横浜市)
 - ・ 夏の学級活動実技研修会 (8月9日 於：教育館)
- ① 「ルールづくりで学級を鍛える」
 - ② 「話合いで学級集団を鍛える」
 - ③ 「人間関係を深め、仲間づくりをしよう！」

P 1

◎ 思考表現力

名古屋市教育委員会指導室 指導主事 清水 克博

- ・ コミュニケーション能力の育成が今、求められている。学級活動で積極的に話し合い活動に取り組んでいるが、話し合い活動で子どもが多数意見を出しているが、思考の再構築がないし、深まりが見られない。
- ・ 思考表現力の育成をしっかりと考えてみる必要があるのではないか。

◎ 名古屋から

名古屋市特別活動研究会委員長 西川 辰彦

- ・ 日々積み重ねている実践や研究が、全国の先生方から注目されている。その期待に応えるには、実践を磨いていくことが大切である。
- ・ 全国の特活をリードしていくことができるように、「名古屋の特活」の力を全国に発信し続けていきたいと思う。「名古屋市特別活動研究会」で検索して、ホームページに、ぜひアクセスしてほしい。

P 2・3

社会性を客観的にとらえるー“キレイやすい”児童の社会性を考察ー

- ・ 研究会では、児童の社会性を客観的にとらえることを目的に、昨年度、市内の6年生約1000名を対象に調査を行った。本年度は、市内の5年生約1000名を対象に、社会性に関する調査を行い、5年生の社会性を客観的にとらえることができる尺度としての信頼性を確認することができた。調査・分析の詳しい結果は、ホームページに掲載してある。

< “キレイやすい”児童の社会性 >

- ・ “キレイやすさ”の男女差
- ・ “キレイやすい”児童の社会性
- ・ 調査結果に対する考察

今回の調査結果から、“キレイやすい”児童の社会性を高めるためには、その主張にじっくり耳を傾け、「自分が認められているという感覚」をもたせることが重要であることを改めて強く感じた。

P 4・5

名古屋市特別活動研究協議会（1月31日）報告

＜豊かな人間性を育てる特別活動—集団活動のよさを引きだそう！—＞

小 学 校 部 会
<p>＜実践発表＞</p> <p>「伝え合い、高め合うための係発表会をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 係活動の中に、①活動を企画する場面、②係発表のリハーサル場面、③係発表後の振り返り場面の3つの交流タイムを設定した。・ 3つの交流タイムによって、考えを伝え合うことが、より楽しい係活動へ高め合うことにつながるということを、児童が実感できた。
中 学 校 部 会
<p>＜実践発表＞</p> <p>「命の大切さを実感し、共によりよく生きよう」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3段階の実践を考えて指導に取り組んだ。①命の大切さを考える、②命を大切に生きる力を身に付ける、③共に生きる喜びを味わう指導。・ 3段階の実践により、今を精一杯生きることの大切さに気付き、仲間を支え、励ますことの大切さを、生徒が学ぶことができた。
<p>＜指導・助言＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ 話し合いのスキル学習は各教科でも習得できる。特別活動ではそのスキルを活用して、自他の考えをうまく調整できる能力を身に付けさせてほしい。・ 特別活動の必要性を保護者や子どもたちにもきちんと伝えていきたい。そのためにも評価のあり方や、学校の実態を踏まえた全体計画を見直していきたい。

P 5

講演会より（11月23日 於：ルブラ王山）

＜これからの学校教育に期待すること＞

講師：文部科学省初等中等教育局調査官 杉田 洋

- ・ 映画「三丁目の夕日より」
- ・ 学校行事改善のヒント
- ・ 学校は楽しいところ

P 6

特別活動情報

- ・ 「ビデオを見て学級活動を学ぼう」（9月28日 於：橘小学校）
- ・ 「模擬学級会」（10月27日 於：名古屋市教育館）

P1

◎ 特別活動で育てたい力 名古屋市教育委員会指導室指導主事 小池英里子

- ・ 社会状況の変化に伴い、社会性の育成が不十分な傾向が見られる。
- ・ 望ましい集団活動を通して社会性・集団性を育てていくことが、学校教育にとっては重要な課題である。
- ・ 特別活動担当主事連絡協議会では、「健全な自尊感情を育て、人間関係形成能力を育むこと」「社会に参画する力や自治的能力などの育成」等の重要性が強調された。
- ・ 特別活動が学校教育の中で担う役割はとて大きいので、適切な指導を行うための授業時間数の確保をしていくことが大切である。

◎ 活躍する場を 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 井上唯明

- ・ 19年度全小行で、「子どもを育てるとは、舞台をつくることである。子どもの活躍する場をどのくらいつくるかである。」という発言があった。
- ・ 特別活動の意義を再認識し、「どの子にも、活躍する場がつけられているか」と、自校の特別活動の一つ一つを、今一度見直してみる必要がある。

P2

◎ 特集「特別活動を学ぶ」

○ 学級活動実技研修会

《研修内容1》「話しやすい雰囲気づくりをしよう！」

～自己開示をしやすくするために～

「本人クイズ」〈個人〉 「学級クイズ」〈集団〉

P3

《研修内容2》「人間関係を深め、仲間づくりをしよう！」

～人間関係を深めるために～

「出会いのゲーム」〈ジャンケン名刺交換〉

「グループゲーム」〈猛獣狩りゲーム〉

〈ドラえもんゲーム〉

P4

◎ 平成19年度 名古屋市特別活動研究会 研究方針

豊かな人間性を育てる特別活動

ー今こそ特別活動の温故知新を！ー

- ・ 確認してみよう・・・特別活動の今日的課題！！
- ・ 温故知新・・・・・・・・おっとその手があったかい！！

○ 過去の実践に学び,子どもたちにとって有用な指導の在り方を共有し、
目の前の子どもたちにとってより効果的な指導を工夫しよう

◎ 特別活動情報 2007上半期

- ・ ビデオで学ぼう 平成19年6月29日
- ・ 第42回小学校学校行事研究全国大会東京大会

平成19年8月2～3日

P1

◎ 特別活動の先にあるもの 名古屋市教育センター指導主事 清水克博

- ・ 「学力の二極化」「地域内格差」という言葉をよく耳にする。
- ・ 階層的に恵まれていないと思われるが、学力水準の低下や格差の拡大を克服している学校の共通点は、「集団づくり」がなされていること。
- ・ 集団ができていれば、子どもに自尊感情が育ち、思考力や判断力、知識技能が身に付くことで学力が育つ。
- ・ 特別活動は、集団づくりだけでなく、その先にある効果を見据え、取り組んでいきたい。

◎ 子どもを「前向き」に変える 名古屋市特別活動研究会委員長 亀山敦

- ・ よりよい学級・学校を目指して話し合いを重ねると、子どもは「前向き」に変わる。
- ・ 話し合いの中で、主張すべきことは主張し、相手の考えも尊重できる姿が見られるようになる。
- ・ 子どもを変える質の高い実践を、今後も目指していきたい。

P2

◎ 第42回 小学校学校行事研究全国大会東京大会 分科会発表

「地域とのつながりを生かした学校行事」

1 実践の概要

(1) 講座と活動内容の決定

児童へのアンケートを基に、講座と活動内容を決定した。複数の学年が混じり合うように活動人数を設定し、活動する講座を決めた。

(2) 活動を通して交流を深めよう

講師である地域の方々に教えてもらいながら、子どもたちは楽しんで活動に取り組んだ。異学年で教え合う姿も見られた。2 地域とのかかわりが広がり、深まって

「わくわくタイム」での交流を終えて、地域の方々の児童への思いが一層強まった。生活科や総合的な学習の時間でも、講師や見学・体験先として交流を深めている。

P3

◎ 講演「新しい時代を切り拓く学校行事の創造」

講師：文部科学省 杉田洋 調査官

- ・ 「特別活動は人間性をテーマにした全人教育活動」である
- ・ 新学習指導要領における学校行事の改善の視点は、「自尊・自律」「人間関係を築く力」「社会の活動に参画」「感動ある体験活動・言語活動の充実」「体験活動と言語活動の結び付き」。
- ・ 名古屋大会では、学校行事に関心のない人に参加を呼び掛け、底辺を広げることが大切。

◎ 1年半後 全小行名古屋大会開催

なごやとっかつの「社会性」を学校行事で

◎ 第44回 小学校学校行事研究全国大会名古屋大会

「かかわりあい みとめあい 手を取りあって ゆめ実現」

社会性をはぐくむ学校行事の創造 —新学習指導要領をふまえて—

P4

◎ 名古屋市特別活動研究協議会

「豊かな人間性を育てる特別活動」

実践1 小学校部会 「一人一人が活躍できる学校にしよう」(4年)

実践2 中学校部会 「あらゆる場面を活用して

話合いを楽しめる学級にしよう」(2年)

P1

◎ 特別活動は心の浄化装置 名古屋市教育委員会指導室指導主事 原田雅裕

- ・ 新学習指導要領が示され、特別活動は、来年度から先行実施することになった。
- ・ 特別活動の充実を図ることで、「望ましい集団生活を通して社会性を育む」「どの子どもにも活躍の機会を与え、健全な自尊感情を育てる」ことができる。
- ・ 学校教育の中で子どもたちの『心の浄化装置』となり得るのが特別活動である。
- ・ 新学習指導要領に則って、年間指導計画を作成し直す事が急務である。

◎ 平成21年 名古屋大会を目指して

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 伊藤廣基

- ・ 平成21年6月、文科省が示した学習指導要領のなかで、『学校行事においては、学校行事を通して育てたい態度や能力を新たに目標として示した。特によりよい人間関係を築き、公共の精神を養い、社会性の育成を図ることを重視した。』とある。
- ・ 名古屋大会の研究内容は、時宜を得たものである。
- ・ 学校行事の事前指導を、担任としてどう進めるとよいかを報告することで、よりよい学校行事の実践につながる。

P2

◎ 第44回 小学校学校行事研究全国大会名古屋大会

「かかわりあい みとめあい 手を取りあって ゆめ実現」

社会性をはぐくむ学校行事の創造 —新学習指導要領をふまえて—

○ 開催日・・・平成21年8月6日（木）8月7日（金）

○ 会場・・・8月6日（木）全体会：名古屋市教育センター
8月7日（金）分科会：名古屋国際会議場

◎ 6つの分科会のテーマと研究の視点

[第1分科会]「新学習指導要領をふまえた学校行事の全体計画」

研究の視点→他の教育活動との連携を図りながら、社会性をはぐくむ学校行事の全体計画はどうあったらよいか。 校

[第2分科会]「自然の中で共に活動する体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」

研究の視点→自然の中での活動を互いに認め合い協力してつくり上げてく体験を通して、社会性をはぐくむ学校行事をどう計画実践したらよいか。 い

[第3分科会]「文化や芸術を共に親しむ体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」

研究の視点→文化や芸術に親しむ活動の中で、互いに認め合い協力して っ
くり上げていく体験を通して、社会性をはぐくむ学校行事をどう計 画実践したら
よいか。

P3

[第4分科会]「社会奉仕や社会参画の体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」

研究の視点→社会奉仕の尊さを体得したり，社会に参画したりする活動 の
中で，互いに認め合い，協同して社会のために役立とうとする体験 を通して，社
会性をはぐくむ学校行事をどう計画実践したらよいか。

[第5分科会]「様々な人々とふれ合う体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」

研究の視点→様々な人々と，互いの考えや立場を認め合い，協力してや り
遂げる体験を通して，社会性をはぐくむ学校行事をどう計画実践し たらよいか。

[第6分科会]「学校行事を通してはぐくむ社会性とその育ちの確かめ」

研究の視点→学校行事の実践を通して社会性がどのようにはぐくまれる か。
また，児童の変容を見取り，社会性の育ちを確かめ，実践の有効 性を明確にする
にはどうするか。

◎ 「第43回大会・大阪大会」について

P4

◎ 特別活動情報

- 「特別活動を学び合おう」
- 「学級活動実技研修会」

◎ 特別活動における不易

名古屋市教育センター指導主事 清水克博

- ・ 子どもたちが抱える課題や社会的な要請を見据えた、新学習指導要領が公示された。
- ・ 過去、特別活動では、集団主義的教育を主張するグループと、個の伸長に重点をおくべきとの考えのグループと、二つの考えに分かれて実践が行われていた。
- ・ 特別活動で忘れてはいけないことは、集団とそれを構成する個を共に伸ばすことである。

◎ 深めること、生かしていくこと

名古屋市特別活動研究会委員長 石原正教

- ・ 特別活動では「為すことによって学ぶ」体験活動が重要視される。
- ・ 今回の新学習指導要領では、本研究会がこれまでに取り組んできたことをに加えて、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動の重質についても新たに加わった。
- ・ 新学習指導要領が重きを置いていることは、本研究会がこれまで取り組んできたことを一層深めていけばよいことである。

P2

◎ 第44回 小学校学校行事研究全国大会名古屋大会

「かかわりあい みとめあい 手を取りあって ゆめ実現」

社会性をはぐくむ学校行事の創造 —新学習指導要領をふまえて—

- 開催日・・・平成21年8月6日（木）8月7日（金）
- 会場・・・8月6日（木）全体会：名古屋市教育センター
8月7日（金）分科会：名古屋国際会議場

[大会趣旨]

- ・ 『なごやとっかつ』が考える「社会性」の定義
…交流を通して他者理解を深め、集団に寄与しつつ自己実現を図る能力
・ 他者理解が深まり、自己実現の意欲が高まることによって、実践場面において、子どもたちは十分に力を発揮する
- ・ 学校行事において社会性をはぐくむために、重視すべき学級活動のポイント

- 事前のガイダンスなどにより、子どもたちが該当の学校行事への願いや考えをもてるようにすること。
- 事前の話合い活動などを通して、自分なりの活躍できるイメージをもたせること

- 学校行事の実践の場において活発な交流が行われる場面を工夫すること。
- 活動を振り返り、思いやりや励まし、自分の気持ちの変化などに気付かせること。

P3

◎ 分科会の内容

[第1分科会]「新学習指導要領をふまえた学校行事の全体計画」

[第2分科会]「自然の中で共に活動する体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 [第

3分科会]「文化や芸術を共に親しむ体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 [第4分科

会]「社会奉仕や社会参画の体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 [第5分科会]「様

々な人々とふれ合う体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 [第6分科会]「学校行事

を通してはぐくむ社会性とその育ちの確かめ」

P4

◎ 名古屋市特別活動研究協議会

「社会性を培う特別活動」

実践1 小学校3年 「みんな なかま」～自分も友達も大切に～

実践2 小学校5年 「みんなで進もう スマイルロード」

～よりよいクラス目標の実現を目指して～

実践3 中学校生徒会 「真の生徒会を目指そう！！」

◎ 「不変」を意識しながら 名古屋市教育委員会指導室指導主事 沼部達也

- ・ 新学習指導要領の完全実施に向け、本年度より移行期を迎えた。
- ・ 完全実施に向け、様々な変化が求められている中でも、「不変」は存在する。
- ・ 変わらないことは、子どもたちに豊かな心をもたせ、生きる力を育ていくという大きな目標である。
- ・ 常に「不変」を意識しながら「感動あふれる」学校づくりを目指し、教育実践を進めてほしい。

◎ 新しい特別活動の創造を

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 渡邊正明

- ・ 第44回小学校学校行事研究全国大会名古屋大会の開催にあたっての支援・力添えに深く感謝する。
- ・ 新学習指導要領では、「人間関係」や「自己の生き方」が加えられた一方で、体験活動や言語活動の重視が示されている。
- ・ 特別活動では、「何を学ばせるのか、そのために、何をどのように為さしめるのか」が重要となってくる。
- ・ 「なごやとっかつ」の新たなスタートのために、全国大会で得た力を十分に発揮してほしい。

P2

◎ 全小行名古屋大会開催

「社会性をはぐくむ学校行事の創造」－新学習指導要領をふまえて－

[基調提案]

・ 『特別活動における社会性』は、交流を通して、他者理解を深め、集
団に寄与しつつ自己実現を図る能力。

・ 社会性をはぐくむために、「事前のガイダンス→事前の話合い→交流
できる場を設定した学校行事の実践→振り返り活動」という『交流
プログラム』が効果的である。

[記念講演]「子どもたちの感動を生み社会性をはぐくむ学校行事」

文部科学省初等中等教育事務局教科調査官・杉田洋先生

・ 行事と学級のつながりの重要性を考えれば、学校行事の母体は、学級
である。

・ 学級をベースにした学校行事が、子どもたちの社会性の育ちに不可欠
である名古屋大会の役割は大きい。

[第1分科会]「新学習指導要領をふまえた学校行事の全体計画」

『感動体験を一層重視した体育的行事の全体計画』

P3

[第2分科会]「自然の中で共に活動する体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 顔でつかもう 5つの宝・・・中津川野外学習・・・』 『笑

[第3分科会]「文化や芸術を共に親しむ体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 いがっとなり，支え合って創り上げる学芸会』 『互

[第4分科会]「社会奉仕や社会参画の体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 世話になった方々に感謝の気持ちを表そう』 『お

P 4

[第5分科会]「様々な人々とふれ合う体験を通して社会性をはぐくむ学校行事」 会い ふれ合い つくりだす喜びを・・・作品展』 『出

[第6分科会]「学校行事を通してはぐくむ社会性とその育ちの評価」
『実証性に基づいた教育評価をするために』

P1

◎ 完全実施2年目に向けて 名古屋市教育センター指導主事 蔭山由美子

- ・ 新学習指導要領では、小学校の児童会活動、中学校の生徒会活動の内容に「異年齢集団による交流」が明示されている。
- ・ 市内では、小学校の多くが異学年グループや縦割りグループでの活動を行っている。また、中学校では、学校行事に異学年や縦割りで取り組む例が見られる。
- ・ 完全実施2年目となる来年度、活動計画や時間の確保など、各学校で解決すべき課題は数多くある。
- ・ 校種の違いにかかわらず、互いに情報交換を行い、よりよい実践づくりを探り合い、高め合っていけるとよい。

◎ やってみましょう 特活を！ 名古屋市特別活動研究会委員長 福永尚史

- ・ 人間は、かかわり合い、助け合いながら生きている。
- ・ 少子化の今、人とかかわりながら生きていく力を身につけることが困難になってきている。
- ・ 特別活動で、豊かな人間性や社会性を培うことが大切になってきている。
- ・ 本研究会では、望ましい人間関係を築く態度を形成したり、所属感を深め社会性や公共の精神を培ったりすることができる実践に取り組んでいる。

P2

◎ 研究部の活動紹介

[特別活動を学び合おう1]

小学校低学年，中学年，高学年の3つのグループに分かれて学習会を行い，実践を行う上で困っていることや悩んでいることについて学び合った。

[学級活動実技研修会]

講座1：「人間関係を深め，仲間づくりをしよう！」

講座2：「模擬学級会を体験しよう！」

[特別活動を学び合おう2]

学校行事に関わる実践の発表。及び「振り返りアンケート」の活用について詳しく学んだ。

P3

◎ 名古屋市特別活動研究協議会

「社会性を培う特別活動」

実践1 小学校5年 「力を合わせて意見の違いを乗り越えよう」

～学級の成長を見通した学級集会の指導を通して～
実践2 中学校2年 「合い言葉は”協・優・元”～協力・優しさ・元気～」
～絆を深めようとする学級を目指して～

P4

- ◎ 社会性の育ちを確かめるためには…
 - 「交流プログラム」について
 - 「散布図を活用した評価方法について」

責任者：三輪 康裕

◎ 子どもに居場所を

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 粕谷 明弘

- ・ 周りの子とコミュニケーションをうまくとれない子どもの増加が叫ばれている状況だからこそ、学校や学級、家庭に、子どもたちの居場所が必要。
- ・ 教科の学習や部活動に自分の居場所がない子もいる。
- ・ どの子でも活躍できる場が、係活動などの学級活動。子どもたちの活躍が認められる学級づくりや特別活動の実践がなされることを強く望む。

◎ 学習会をやっています！

8/18 学級活動実技研修会報告

講 座	内 容
講座① 係活動をパワーアップしよう 『2学期から取り組みたい 新しい係活動は？』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「当番活動」と「係活動」はどう違うのかな？ ・ どんな係活動があると学級がうるおうか、出合ってみよう
講座② 学級会を体験しよう 『3の3をさらに学級目ひょう のクラスにしよう』	工夫1：事前アンケート 工夫2：意見は短冊で 工夫3：仲間分けをして整理
「ビデオで学ぶ会」のお知らせ	

◎ 見~つけた！おもしろ実践

内 容	手 立 て
学級目標「学級のみんなが楽しめるようにしよう」を達成するために お楽しみ係から提案された「仮装お笑い集会」 についての話合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の立場を明らかにする「自己カード」 ・ みんなの評価を集約する「アイデア分析ボード」 ・ 問題点を解決する話合い

◎ 名古屋市特別活動実践研究会 部会紹介

啓発部

- 互いの実践記録を持ち寄って検討し合い、子どもが生きる特活の実践になるよう学習を進めている。
- 6 / 24 の第1回学習会 名古屋市教育センター指導主事「実践記録のまとめ方の極意」の様子
- 8 / 3 の第2回学習会 研究計画書をもとにした学習会の様子

責任者：三輪 康裕

◎ 特別活動の果たす役割は…

名古屋市特別活動研究会委員長 三輪 康裕

- ・ 友達とかかわることができない子どもが年々増えている現状から、子どもに社会性を育てることが求められている。
- ・ 社会性を育てていくうえで、特別活動の果たす役割は大きい。
- ・ みんなで話し合い、役割を分担して目標の実現に向かって取り組むと、達成できた時の大きな喜びと人とかかわり合うことの大切さを実感することができる。
- ・ その積み重ねが子どもの社会性につながっていく。
- ・ 今後も研究会では、全市の先生方の参考になるような質の高い実践を目指して取り組んでいく。

◎ 社会性を育む学級活動の創造

特別活動実践研開発部報告

学級活動において社会性を育むための研究を進めてきた。学級活動の話合いにおいて、下記のように進めてはどうか。

展 開	内 容	具体的な実践例 「ドッジボール集会をしよう」
事前	①交流の内容を明らかにする。 ②交流への意欲を高める。 ③ねらいの意識付けを図る。	運動を苦手と感じている子の気持ちをくみ、「アイデアを出し合って、みんなが活躍できるようにしよう」といった話合いを行う。
本時の話合い	①提案とその理由を説明する。 ②反対意見など異なる意見も提示する。 ③異なる立場を発表する。 ④互いに質問し、新たな提案を考える。 ⑤集団決定する。	ドッジボールを苦手と感じている子を集計し、数値化したものを示したり、不安に思っている点を子どもたちに伝えたりする。
話合い後の指導	①話合いの振り返りをする。 ②参加の仕方を決定する。 ③ふりかえりプリントⅠを実施する。	このドッジボール集会にどのような気持ちで参加したいかなど、集会のねらいに沿った自己決定を働きかける。
事後	①活動の流れ、ねらいを確認する。 ②実践活動を進める。 ③見直しタイムをとる。 ④ふりかえりプリントⅡを実施する。	活動の途中に自己決定カードを見直したり、後半の活動に対してもう一度考え直したりする時間を設ける。 ※活動が順調な場合、見直しタイムを設けない。

◎ 名古屋市特別活動研究協議会実践内容紹介（1 / 28）

実践者	実践内容	学級の実態	工夫
小学校	学級みんなで一緒に活動する喜びを味わわせたい ～そのために、集会を計画する話合いがしたい～	幼児期の自己中心性が残っていて、仲間の気持ちを大切にす る態度やよりよい学級を築こうとする自 主性はまだ十分育っ ていない。	みんなの考えが分かる 評価ボードを使い、話 合い前に一人一人の立 場や考えの違いを確か める。
中学校	級友同士のかかわりを深め、積極的に活動させたい ～中学校最後の1年、みんなで学級をつくり上げてほしい～	これまでの人間関係に目が向き、特定の友人以外とはかかわ ろうとしない生徒が多い。話合いや学校行事の取り組みなど に対して消極的な生徒も見られる。	朝や帰りなど、日常の中に話合いや認め合いの場面を設定し、受容的な学級の雰囲気をつくる。
指導・助言より			
先生に仕事を頼まれたときの子どもの うれしい気持ちを大切に。手間を惜しま ず、エネルギーをかけて、実践に取り組 んでほしい。 教育センター指導主事	子どもたちの声を基にして、教師の指導 の下に進めているところがよい。学校をよ くするために、今こそ特活に取り組んでほ しい。 指導室指導主事		

責任者：三輪 康裕

◎ 「話し合いを育てる」

名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 白石 悟

- ・ 特別活動を通して、一人でも多くの子どもたちに、心に響く、本物の感動・感激の体験を味わわせたい。
- ・ 子どもたち自身で問題を解決できる力を育てる使命が私たちにはあるが、その解決の基盤となるのが話し合いである。
- ・ 小学校の低学年から話し合いの基礎を根気よく育てる必要を感じる。
- ・ 話し合いが育てば、感動・感激の体験を味わうだけでなく、心豊かな人間への成長が期待できる。

◎ 学級活動にチャレンジ！

学級活動実技研修会報告

40人の先生方が参加し、仲間づくりに役立つゲームをしたり、先生役、児童役に分かれて、模擬学級会を行ったりした。

◎ 見
~つけた！お
もしろ
実践
(小学
校6
年)

講座名	講座① 人間関係を深め、 仲間づくりをしよう！	講座② 学級会（模擬授業）を体験しよう！
概要	ゲームを通して、協力したり、いつもとは違う立場になったり、仲間の新たな一面に気づいたりすることができる。	小学校6年生になったつもりで、「6の1の絆を深めよう」を議題に模擬学級会を行う。高学年の話し合いでは、多様な意見のよさを生かした集団決定を目指す。
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ ルールを徹底させるため、本番の前に練習を！ ○ 明確な判定をすることで、勝っても負けてもその場ですっきり！ ○ ルールを工夫し、みんなにチャンスがあるように。 ○ 教師が思い切り楽しむ。 ○ 応援している子を褒めることも忘れず。 ○ トラブルは「どうするとよいか」を考えるチャンス。 	<p>①学級会を計画的に進められるように（計画委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画委員会を組織し、役割分担を行う。 ・ 司会マニュアルなどを用意し、自主的に進められるようにする。 ・ 事前に一人ひとりに考えを持たせる。 ・ 事後に振り返りをさせる。 <p>②話し合いを自主的に進められるように（教師の指導・助言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの方向がずれる→めあての確認をしたり、論点を整理したりする。

		<ul style="list-style-type: none"> 人を責める発言が出る→学級としてどうしていくとよいのかを考えさせる。 主張のし合いで進まない→互いの案のよさに目を向け、合わせられないか促す。
--	--	--

実践のねらい	手立て	指導の様子
「やらなくてはいけない活動だからやる」のではなく、「こうしていきたい」という願いを大切に、主体的に活動に取り組むことのできる児童の育成を目指した。	振り返りノート工夫 個々のノートに、毎回の活動の目標設定とその振り返りを積み重ねた。(クローバーノート)	1年生との交流を行った学級集会活動で実践前の活動目標の設定と実践後の振り返り活動を行った。2回目以降の集会で、より具体的な目標をもつことができるようになった。 継続した活動において、目標設定と振り返りの繰り返しを積み重ねていくことで、児童がより主体的に活動に取り組もうとする姿が見られるようになった。

◎ 名古屋の先生☆全国で活躍

夏季休業中に行われた研究大会において、名古屋の代表として発表した実践の紹介。

大会名	実践名
第46回 小学校学校行事 研究全国大会 京都大会 ～明日へのとびらを開く 学校行事の創造～	ありがとう、そして任せてよ ～思いをつなぐ卒業式～
第55回 全国特別活動 研究協議大会 愛知・豊橋大会 ～明日へのとびらを開く 学校行事の創造～	考えを伝え合い、生かし合う児童の育成 ～みんなでつくりあげる喜びを味わう学級活動を通して～ 集団の向上のために、思いを出し合おうとする生徒の育成 仲良く助け合って学級生活を楽しくする子どもの育成 望ましい勤労観を育てる学級活動

責任者：三輪 康裕

◎ あたたかい学級集団づくりを

名古屋市特別活動研究会委員長 三輪 康裕

- ・ 友達のことを考えながら、みんなで力を合わせて活動する。そんなあたたかい学級集団づくりを行う上で、特別活動の果たす役割はとても大きいと感じる。
- ・ 子どもたちが学級をよりよくするために話し合い、判断し、実行する。その結果、「自分の役割を果たさなければ」などと実感することができ、その積み重ねが、あたたかい学級へとつながる。
- ・ 特別活動に取り組みましょう！あたたかい学級集団を目指して。

◎ 「よりよく人とかかわる力」を大切にしよう

名古屋市特別活動実践研究会 開発部報告

これからの特別活動で育てていきたい力について、文献などを通して調べ、話し合った結果の一部を報告する。

文献等	キーワード	内容
新学習指導要領	「人間関係」	新しい学習指導要領の目標には、特別活動の役割を明確にするために、「人間関係」という言葉が新しく入っている。
OECD	「人間関係」 「キーコンピテンシー」 「相互作用的に道具を用いることができる」 → 「異質な集団で交流することができる」 「自律的に活動することができる」	国際標準の学力として、キーコンピテンシーを挙げているが、その中でも「人間関係」を大切にしている。キーコンピテンシーのカテゴリーの一つ、「異質な…」は「人間関係」を築く力につながる。
名古屋市教育振興基本計画	「よりよく人とかかわる力」	めざす「なごやっ子」像の一つとして「社会性を備え、他人を思いやり、協力・協調する」という姿を挙げている。言い換えると、「よりよく人とかかわる力」が大切にされていく。 特別活動の役割がますます重要になっていく。

◎ 名古屋市特別活動研究協議会実践内容紹介（1／27）

実践者	実践内容	学級の実態	工夫
小学校	みんなが笑顔で過ごせる学級にしたい ～そのために、みんなですぐ活動することの楽しさを実感してほしい～	初めてのことに戸惑う子どもたちも多かった。毎日のようにトラブルが起き、教室に子どもたちの鳴き声が響いていた。	段階的に友達とのかかわりを広げていくことで、みんなですぐ活動することの楽しさを実感できるようにする。 ・ 学級キャラクター「スマイルマン」の顔をみんなですぐ考えた。
中学校	互いを認め合い、自分に自信をもって活動させたい ～みんなですぐ考えを出し合い、一人ひとりが自分の役割を果たしてほしい～	力をもっているが、過剰に周りの評価を気にして活動できない生徒が多い。自分に自信がないため、人任せになってしまう生徒がいる。	学校行事に向けての話合いなどを通して、目標に向かって一人ひとりが役割意識をもって活動できるようにする。 ・ 自分の考えを付箋紙に貼り、みんなの考えをわかりやすくまとめる。

◎ 特別活動を愛する「希望の会」潜入レポート

～あたたかな人間関係を育む特別活動を考えよう～

時間・概要	詳細
1時間目 特別講演 「これからの特別活動のあり方」 文部科学省教科調査官	学級や学校の生活の問題に目を向けることの大切さ、子どもたちが生き生きと活動するための環境づくりの必要性。
2時間目 ビデオの会	学級会のビデオ映像をもとに、グループ協議を行った。学級会の流れや発言などの検討、感想を述べ合うだけでなく、日頃の悩みも話し合うことができた。

責任者：伊藤 一彦

◎ 特活大好き＝学び続ける教師 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 今川 雄二

- ・ 特活を柱に、学級・学年・学校づくりををしている教師の姿勢について、3点紹介。
- ・ 8月21日開催第1回中部地区特別活動研究協議会名古屋大会の紹介。

第1回中部地区特別活動研究協議会報告

講演	<p>「今、特別活動に求められること」文科省教科調査官 杉田 洋氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中部地区特別活動研究協議会発足への謝辞。よりよい人間関係を築くこと、社会に参画する能力を育てることなどが特別活動に求められている。話し合い活動の指導をしっかりと進めてほしい。
講座 I	<p>すぐに学級で実践できる実技講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1分科会 小学校低学年 初歩的なグループ活動の進め方、話し合い活動の座席の位置、話し合いが盛り上がる小道具などの紹介 ・ 第2分科会 小学校中学年 自治的なグループ活動の進め方、係活動でアドバイスをし合う時の話し合いの進め方の紹介 ・ 第3分科会 小学校高学年 計画委員が立てた原案を基に、学級全体で話し合う方法の紹介 ・ 第4分科会 中学校 意見を出しやすい話し合いの進め方の紹介
講座 II	<p>中部で活躍する先生方の実践報告</p> <p>「笑顔あふれる学級づくり」「よりよい学級づくりに自分の考えを生かそうとする児童を育成する学級活動」「学校生活をよりよく高めていこうとする児童を育てる学級活動」「所属する集団を意識しながら自己実現を図ることのできる児童の育成」「自分を信じていることができる生徒の育成」</p>
<p>こんな手だてがありました！（有効な手立ての紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学級目標の実現具合を表すレーダーチャート」 	

見～つけた！ おもしろ実践

- ・ 「所属感」、「承認感」をもたせることによって、「役立ち感」を感じさせ、全校のために力を発揮できる児童の育成を目指すもの。（小学6年生）
- ・ 活動の場 ①学年合奏集会 ②ボランティア隊 ③球技大会

- | | | | |
|---------|----------|-----------|-------|
| ・話し合い活動 | ①学年計画委員会 | ②学年会 | ③学年会 |
| ・認め合い活動 | ①教え合いタイム | ②ボランティア新聞 | ③お礼の会 |

平成24年度 市特活だより 第64号

発行：平成25年3月8日

責任者：伊藤 一彦

『学級づくり』＝『教師の生きがい』 名古屋市特別活動研究会委員長 伊藤 一彦

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動は『学級づくり』に直結する重要な領域、と紹介。 ・特別活動研究会への参加の呼びかけ。 |
|--|

こんにちは！調査部です
調査部の活動紹介

取り 組み ①	<p>キーワード別資料集の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例①：キャリア教育…「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」国立教育政策研究所生徒指導研究センター発行 ・例②：学級集団づくり…「子どもの社会的スキルー横浜プログラムー」横浜市教育委員会発行
取り 組み ②	<p>ウェブサイトから調べられるリンク集の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップページ、どのサイト、どの内容、いつの どの内容、資料の内容 が、一覧になっているので、実践や指導の資料検索に。

名古屋市特別活動研究協議会（1月25日・金）報告

指導 助言	<p>指導室 指導主事 中越 敏文先生 教育センター 指導主事 塩澤ちかげ先生</p>
実践 ①	<p>思い：学級の仲間意識を高めたい（小学5年生対象） 工夫：学級の仲間と活動する場の中で、学級目標を意識させ、その実現に向かって仲間と共に考え、活動するという経験を積み重ねる。 <u>アイディアマップ</u></p>
実践	<p>思い：自分や友達を大切にする学級にしたい（小学2年生対象）</p>

②	工夫：「自分らしさに気付く」、「自分の役立ちに気付く」、「みんなで成長を祝う」3段階の活動から、自分や友達の成長を自分のことのように喜ぶことができるようにする。 キラリカード、いいこといっぱいキラキラノート
---	--

平成25年度 市特活だより 第65号

発行：平成25年10月2日

責任者：関川 俊之

◎ 今でしょ！！特別活動！ 名古屋市学校教育研究会特別活動研究部会長 舟橋 弘

<ul style="list-style-type: none"> ・7月、市内全小学校に配布された、文科省の特別活動リーフレット「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」の紹介。
--

明日から使える！！ 特別活動アイデアコーナー

<ul style="list-style-type: none"> ・係活動への子どもの意欲を長続きさせるためには「話し合いの時間の確保（例；係給食会）」と「成果の可視化（例；計画表と進捗シール）」が効果的。
--

こんな実践見～つけ！

<ul style="list-style-type: none"> ・「学級を良くしたい」という自主的な気持ちや、学級の一員としての「安心感」がもてるようにする係活動（小学6年生） <ol style="list-style-type: none"> ①親しみやすい係名を考え、紹介カードを作る。 ②学級のめあてを意識して企画を行い、全体の場で活動する。 ③全ての係の活動を振り返り、良かった所を記述したおつかれさまカードを渡す。
--

第2回中部地区特別活動研究協議会（8月21日伊勢山中学校）報告

キーワード：話し合い活動、キャリア教育

講演	「小学校段階からのキャリア教育」 愛知教育大学 高綱 睦美氏 ・「キャリア教育とは、子どもが社会人になるまでに基盤となる能力や態度を養うための教育」、「小・中学校における具体的な実践例の紹介」など
実践	中部で活躍する先生方の実践報告 「個性を認め合うことができる集会活動（小5）」、「自信をもち、互いを高め合

提案	う活動（小6）」、「話し合いを中心に据えた代表委員会活動」、「ドリームマップを活用したキャリア教育（中1）」
ビデオ講座	ビデオから学級会を学ぼう ・「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の流れで話し合うことで、「折り合いをつける力」「人の意見を共感的に聞く力」が育つ。（小5） ・教師は、「学級の雰囲気作り」「子どもたちの観察」「半歩下がる」等に気を配って支援する。（小6） ・友達から認められる「普段からのよりよい人間関係作り」、前向きに話し合う「ルールの工夫と徹底」が必要。（中2）

平成25年度 市特活だより 第66号

発行：平成26年3月3日

責任者：関川 俊之

◎ 特別活動で集団づくりを！

名古屋市特別活動研究会委員長 関川 俊之

- ・よりよい学級づくりに有効な「ハイパーQU」の紹介。
- ・特別活動研究会主催の研修会への参加の呼びかけ。

必見！ 「学級活動コーナー」を作ってみませんか？

いつもの教室を一工夫して、自発的・自治的活動を活性化させましょう！

- ・掲示板のレイアウト案について具体的に図示
 「係活動コーナー」「学級会コーナー」「児童会やクラブからのお知らせ」「課題ポストや提案カード」「学級活動用のロッカー」

ようこそ！特活研究会へ ～研究協議会～

名古屋市特別活動研究協議会（1月21日・火）報告

指導 助言	指導室 教育センター	指導主事 指導主事	中越 敏文先生 塩澤ちかげ先生
実践 ①	思い：主体的に取り組むことができる子を育てたい（小学6年生対象） ・一人一人が学級目標から設定した自己目標をもって行動する経験の積み重ね		
実践 ②	思い：代表委員と全校児童のつながりを大切にしたい（代表委員会対象） ・全校生徒との意見交流、タッチあいさつ運動、ホカホカエピソード		

研修部の一年：指導上の疑問点の解消に向けた話し合いや実践検討など勉強会の開催
 研修部の活動紹介

6月	特別活動を学び合おうⅠ 「話し合い活動」「児童会活動」「係活動」の希望に分かれ、質問をし合ったり、アドバイスをし合ったりした。
8月	学級活動実技研修会 実際の学級会のビデオを見て、話し合いの進め方を学んだり、実践提案から意見交換をしたりした。「キャリア教育」についての講演を聴いた。
9月	特別活動を学び合おうⅡ コーディネーターの先生による「児童会・生徒会活動」「学校行事」のねらいや内容の説明、アドバイスなどを行った。
11月	特別活動を学び合おうⅢ 「係活動」の所属決定や振り返りでの子どもたちの様子を映したビデオを視聴して、意見交換や係活動を進めるポイントについて話し合った。

